

3号機原子炉格納容器内ドローン調査結果を 踏まえた考察等(続報)

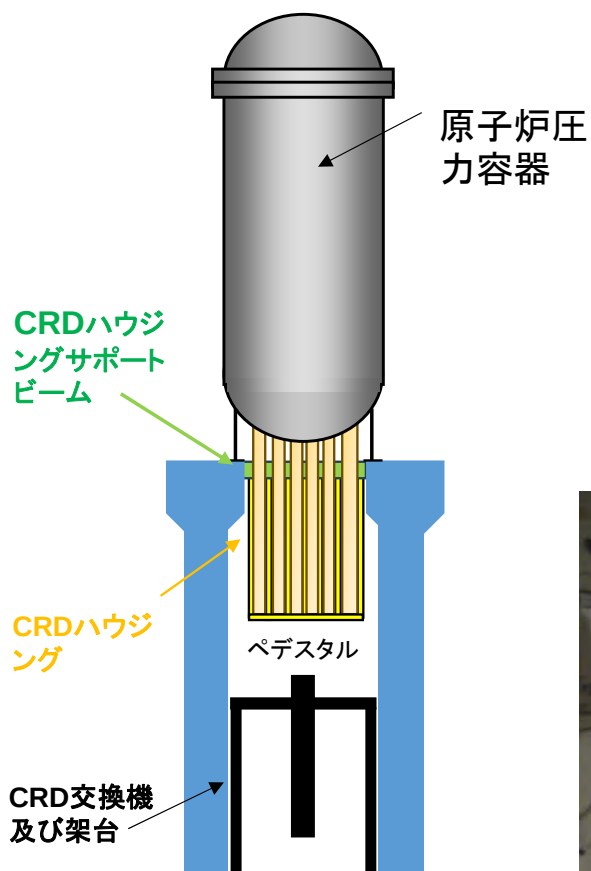
2026年10月22日

原子力規制庁
東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
宮本 健治

目次

1. 3号機原子炉圧力容器及びペデスタル概要
2. 3号機原子炉圧力容器の破損推移(推定)
3. 原子炉圧力容器炉内構造物等
4. 原子炉圧力容器炉内構造物荷重等
5. 炉内構造物荷重とドローン調査結果から得られる考察等
6. ドローン調査結果との推定開口部の比較等
7. RPV損傷箇所とペデスタル損傷箇所との位置関係
8. まとめ(推定含む)
9. 【参考】女川1及び3号機現地調査概要(ペデスタル内調査 CRDハウジングサポート他)

1. 3号機原子炉圧力容器下部ペDESTAL概要



2. 3号機原子炉压力容器の破損推移(推定)

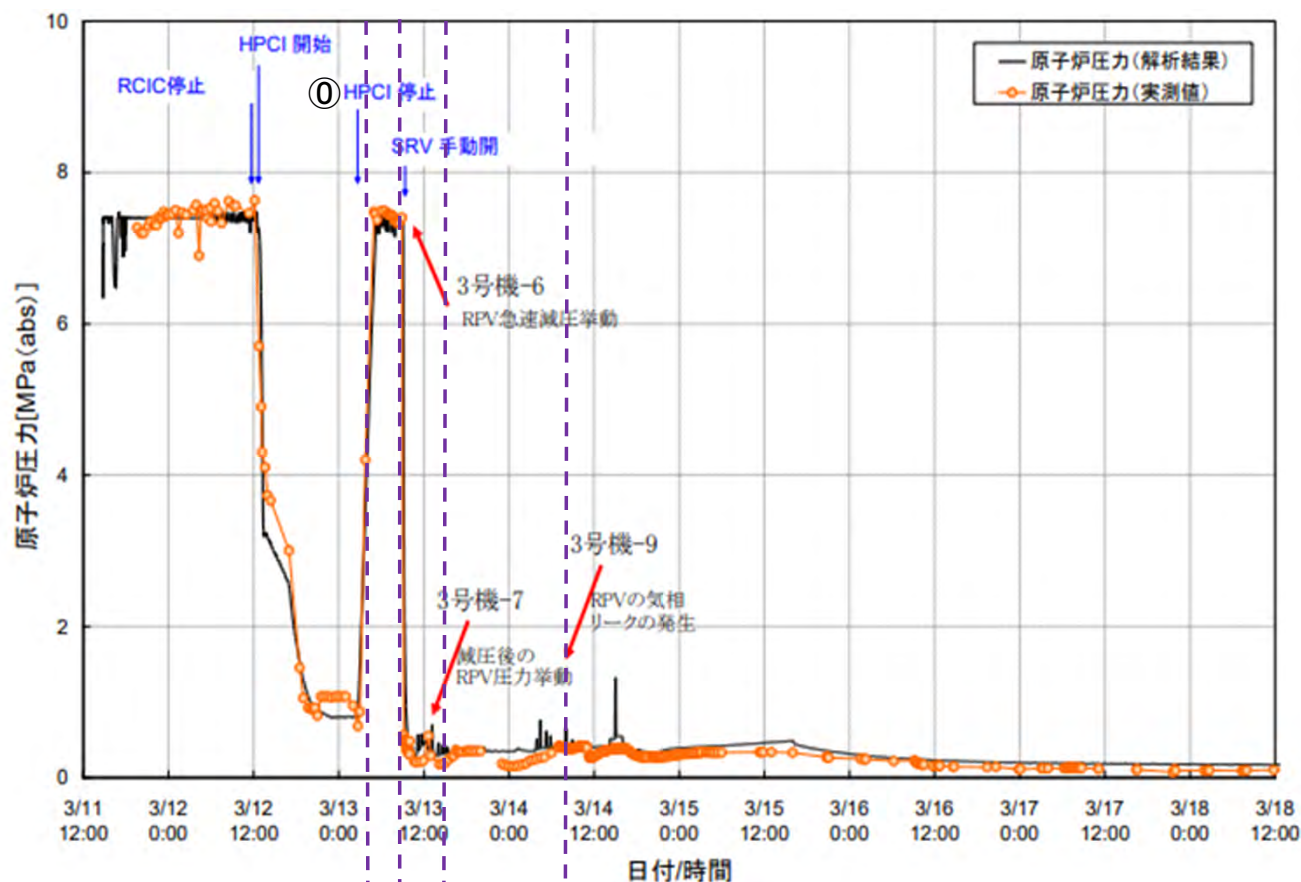


図 5.2.2 3号機の原子炉圧力挙動から抽出された課題

① ② ③ ④

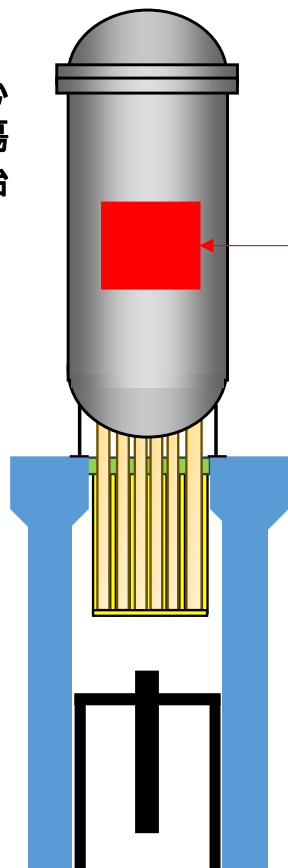
※福島第一原子力発電所 1～3 号機の炉心・格納容器の状態の推定と未
 説明問題に関する検討第6回進捗報告。2022 年 11 月 10 日 東京電力
 ホールディングス株式会社から引用し、規制庁が一部追記

No	時刻	
①	3/13 2:42	HPCI停止 (原子炉への注水停止)
①	5:10	炉心損傷開始(※)
②-1	9:08	急速減圧
②-2	9:25	消火ラインから消防車 による淡水注入開始 (原子炉への注水再開)
③	13:12	消火ラインから消防車 による海水注入開始
④	3/14 11:01	原子炉建屋で爆発発生

※福島第一原子力発電所事故発生後の詳細な進展メカニズムに関する
 未確認・未説明事項の調査・検討結果「第6回進捗報告」について
 添付資料3より引用

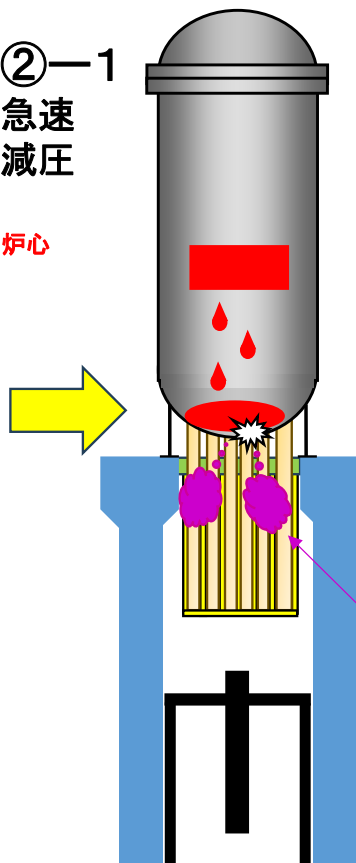
ドローン調査により新たに得られた観察結果に基づき、考察したもの
 であり、一部には今後の検証を要する推定を含む。

① 炉心
損傷開始



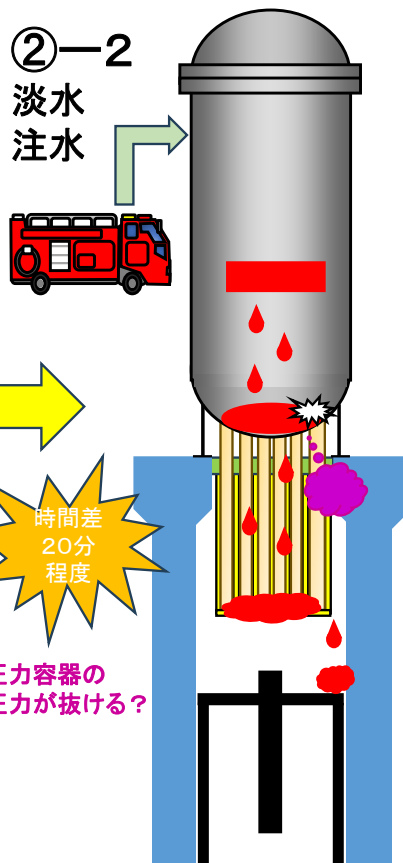
炉心損傷開始

②—1
急速減圧



急速減圧(減圧沸騰)
・圧力容器の一部で損傷が発生した可能性(冷却材枯渇)
【過去の評価】
・ADS作動、安全弁動作

②—2
淡水注水



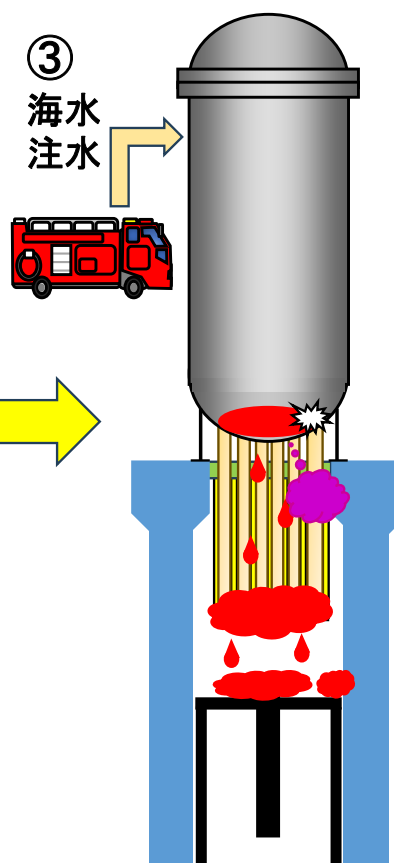
時間差
20分
程度

圧力容器の
圧力が抜ける？

原子炉注水開始

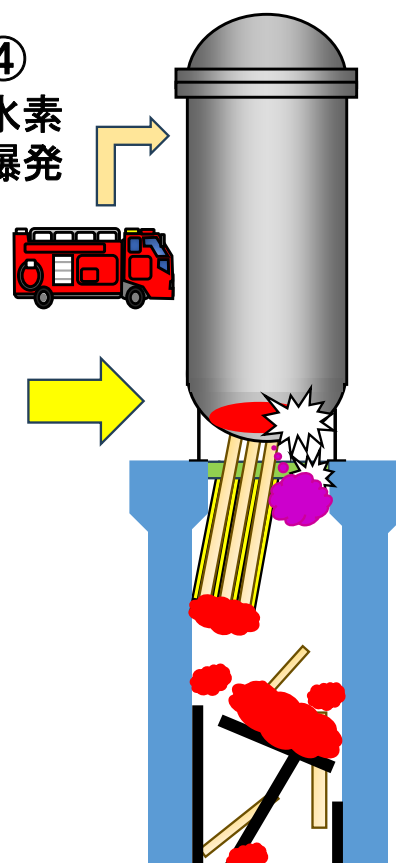
高温・高圧状態の圧力容器
に冷却水が注入され、環境の
変化

③
海水注水



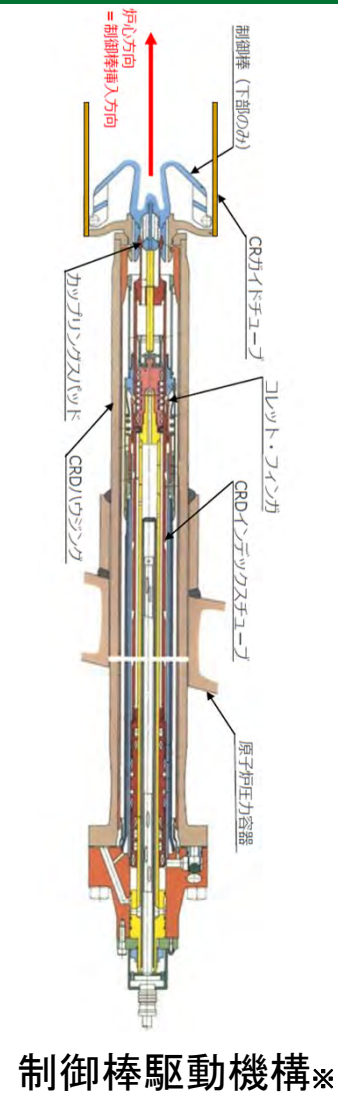
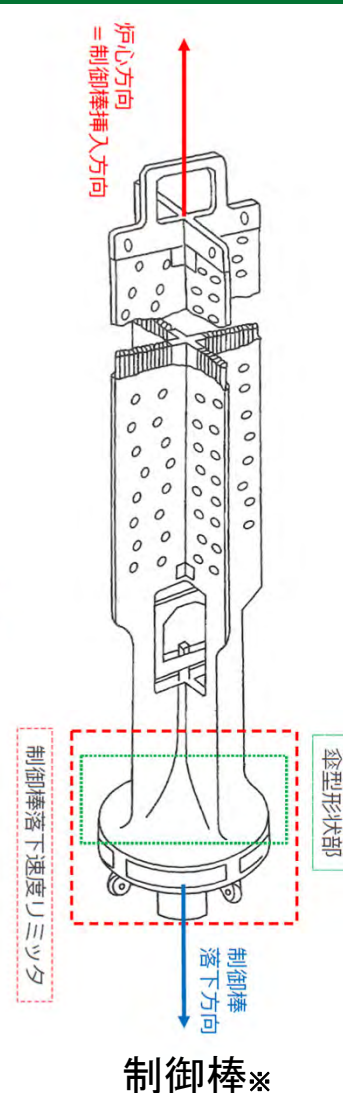
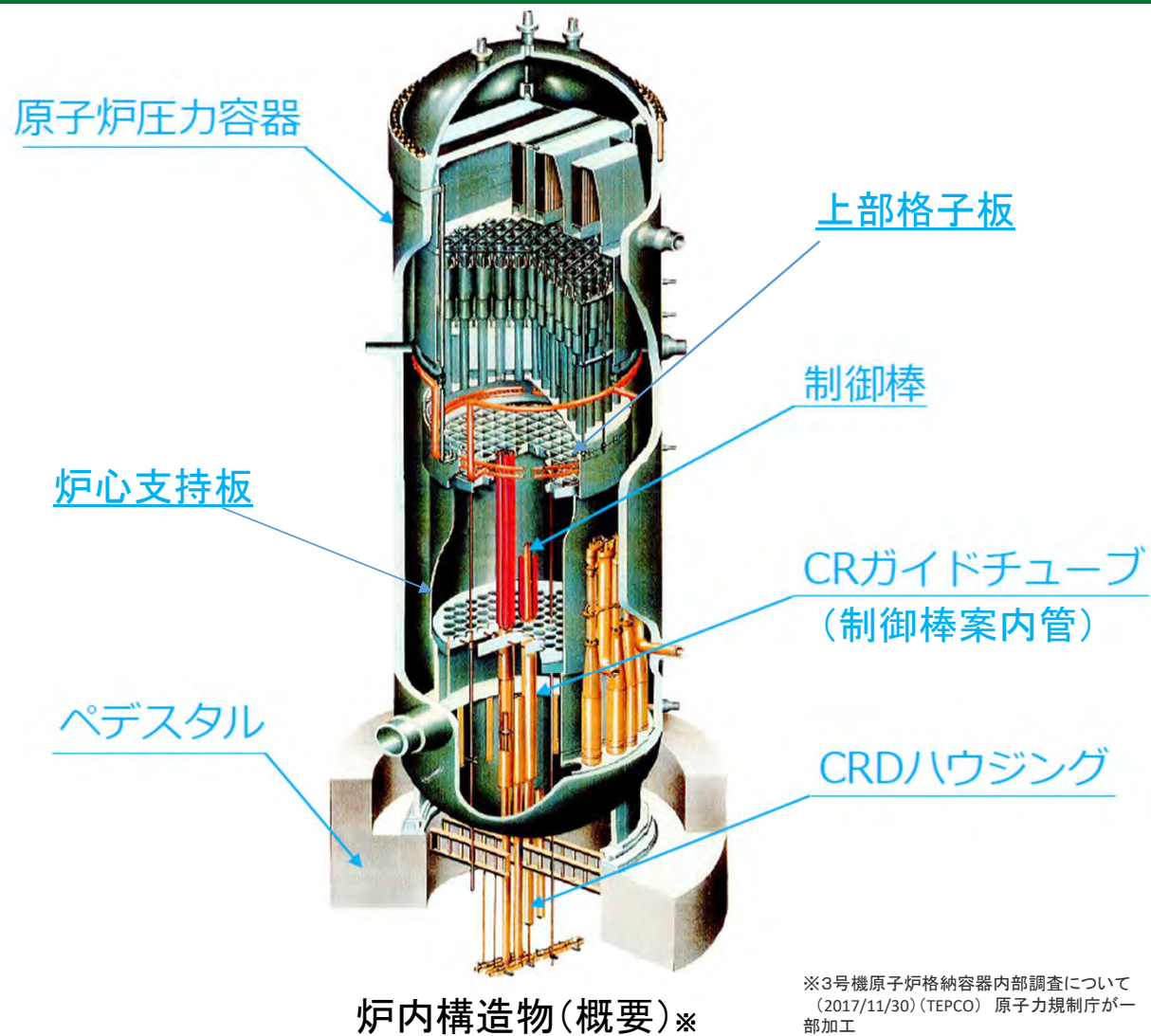
溶融燃料の蓄積が
進行

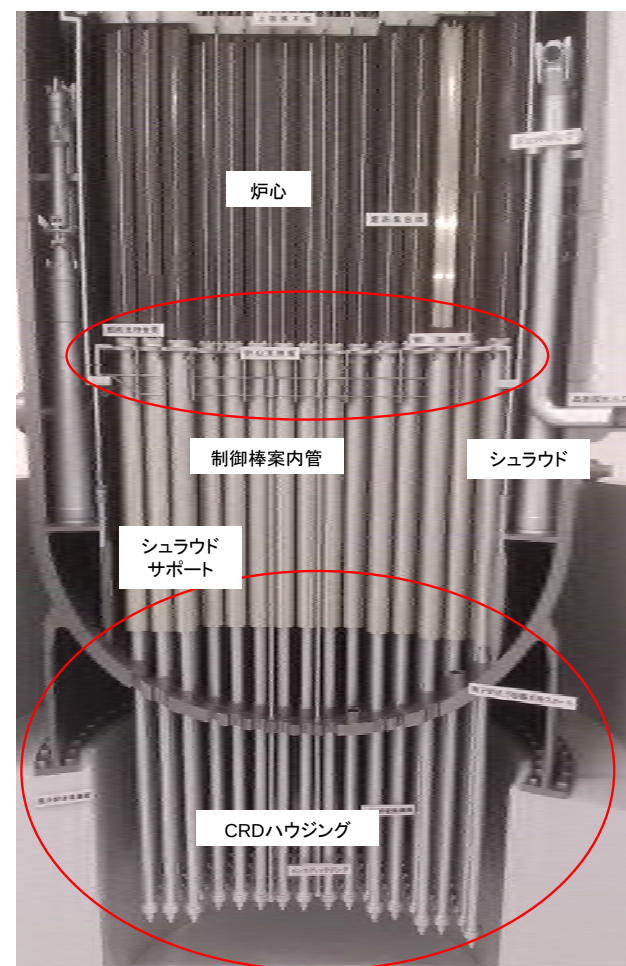
④
水素爆発



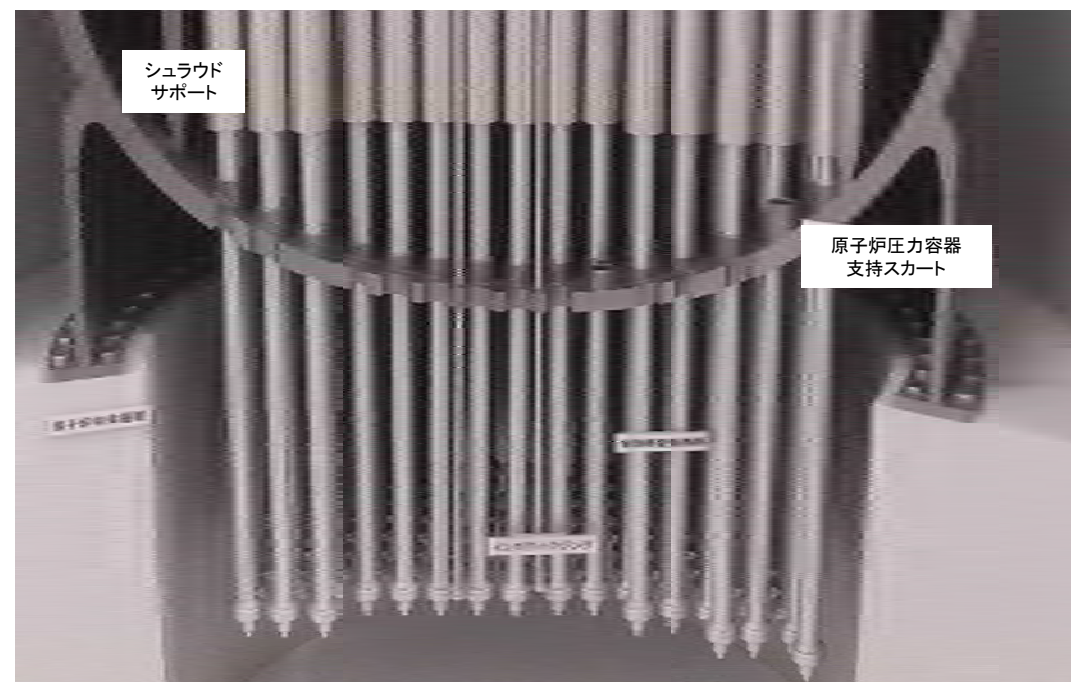
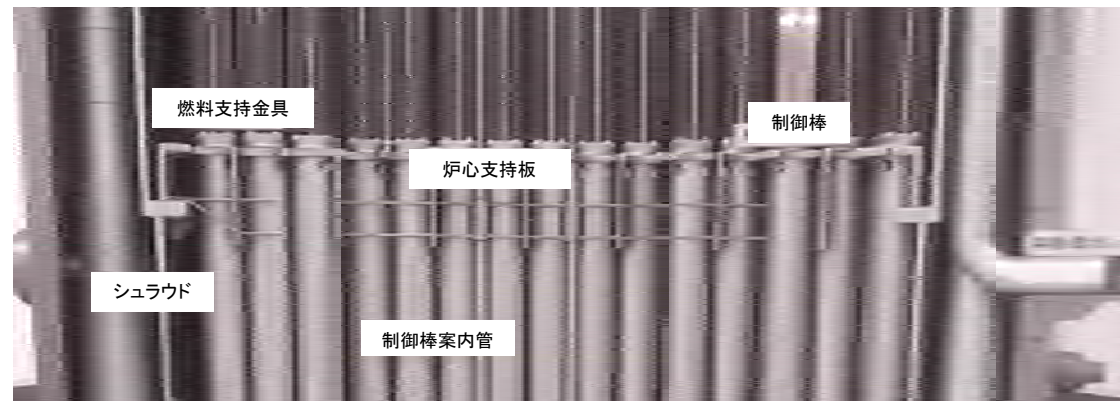
CRDハウジング下部に付着した
堆積物の重み等又は、水素爆発に
よる振動で、下鏡が大きく損傷
の可能性

3. 原子炉压力容器炉内構造物等

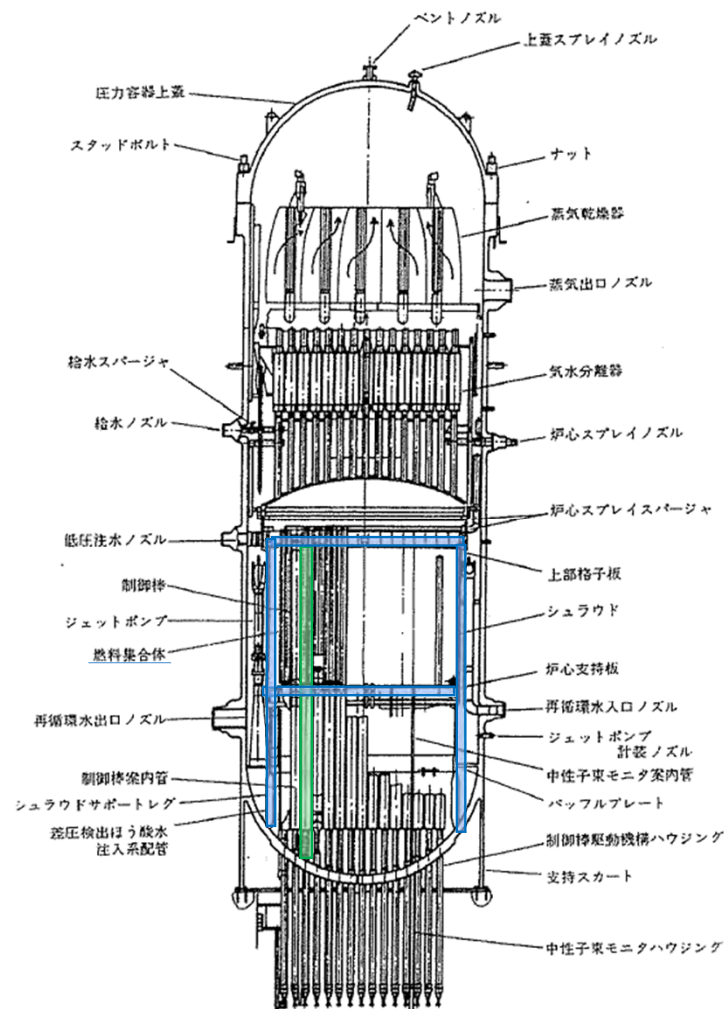




原子炉圧力容器断面モデル
(原子力安全研修所)



4. 原子炉压力容器炉内構造物荷重等



原子炉压力容器断面図
※女川2号機設置許可申請書より引用
(規制庁が色を追記)

【鉛直方向荷重】

燃料集合体

燃料支持金具

制御棒案内管

CRDハウジング

原子炉压力容器

【水平方向荷重】

燃料集合体

上部格子板

シュラウド

燃料支持金具

制御棒案内管

炉心支持板

シュラウド
サポート

原子炉压力容器

5. 炉内構造物荷重とマイクロドローン調査結果から得られる考察



3号機PCV内部気中部調査(マイクロドローン調査)結果から、左写真のように炉内構造物であるCRガイドチューブ(制御棒案内管)が、多数、原子炉压力容器下部及びペDESTALに落下していることが確認された。



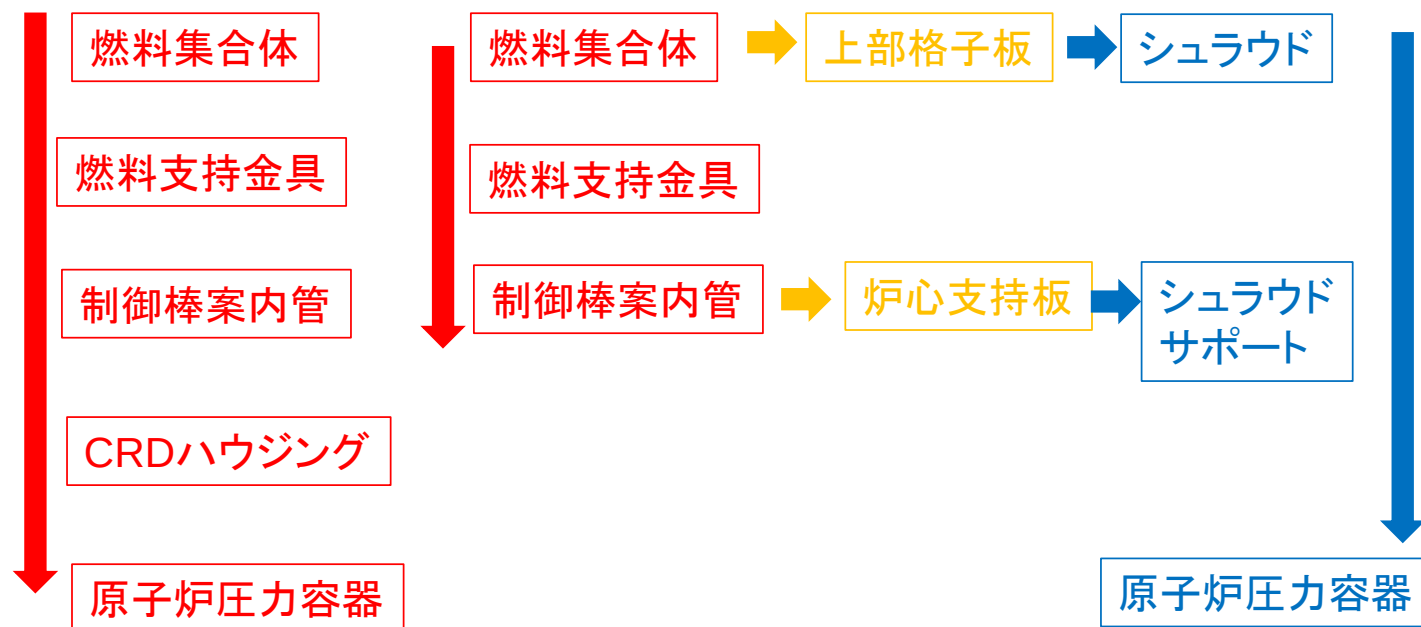
原子炉压力容器炉内構造物の荷重関係から損傷箇所を推定



※左記写真は、第55事故分析検討会資料1から引用

【鉛直方向荷重】

【水平方向荷重】

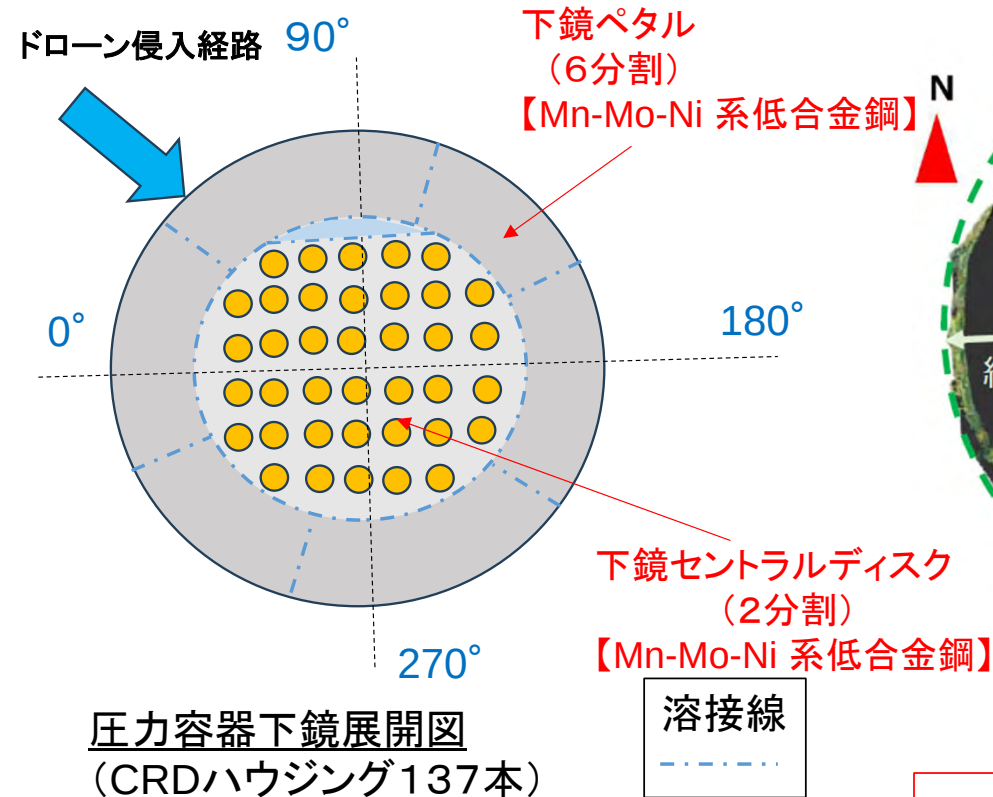


【鉛直方向荷重】

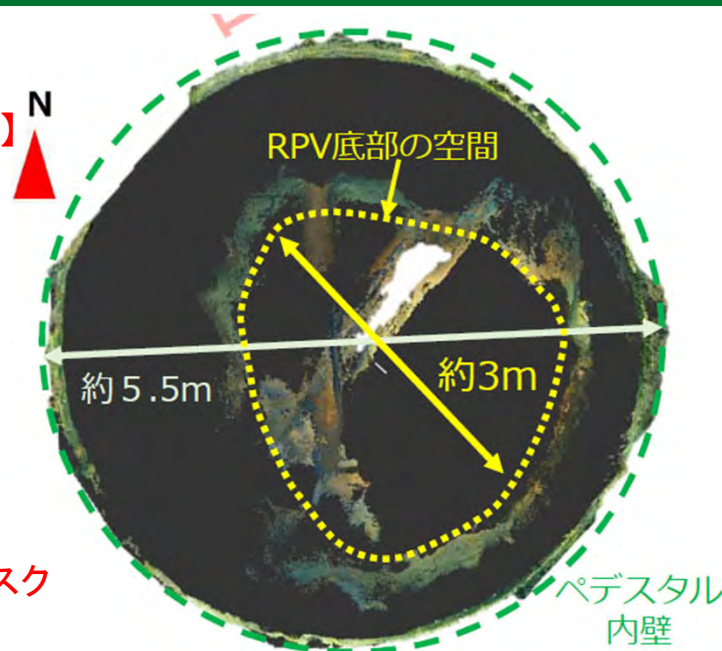
一部の制御棒案内管（CRガイドチューブ）が、ペDESTALへ落下又は、原子炉压力容器下部に散乱していることから垂直方向については、損傷していると断定

【水平方向荷重】

水平方向については、一部の制御棒案内管（CRガイドチューブ）が、同様に散乱していることから、少なくとも上部格子板の一部及び、炉心支持板を含む燃料支持構造の損傷を推察する。
 ただし、シュラウドについては、シュラウドサポート等の損傷については、現時点の映像から評価は困難



(参考)
RPV内径(円筒部): 5.5 m
下端から1 m位置の直径: 約4.24 m
下端から1 m位置の断面積: 約14.1 m²
開口部: 約7.1 m²(直径3mで仮定)



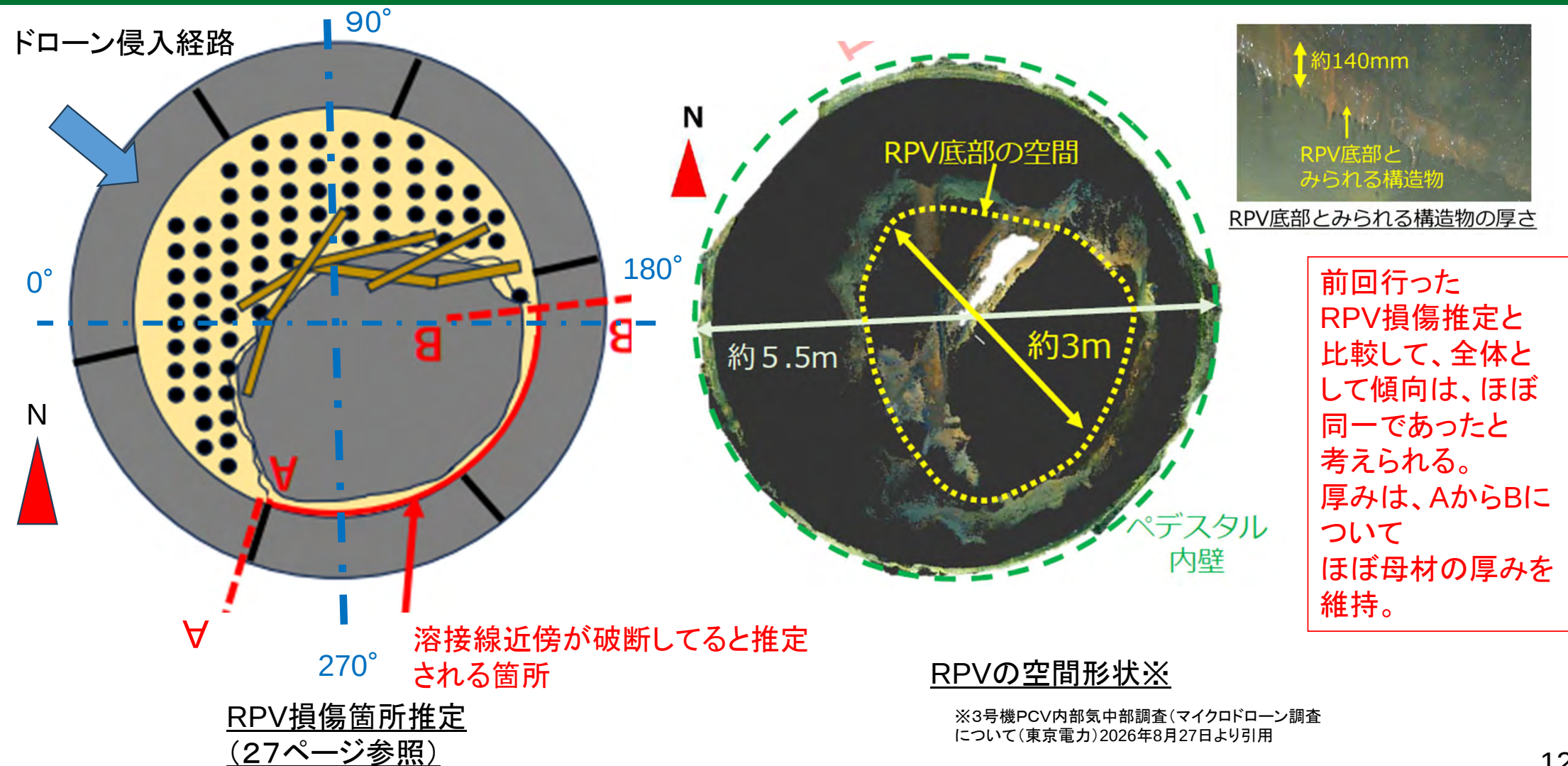
RPVの空間形状※
※3号機PCV内部気中部調査(マイクロドローン調査
について(東京電力)2026年8月27日より引用

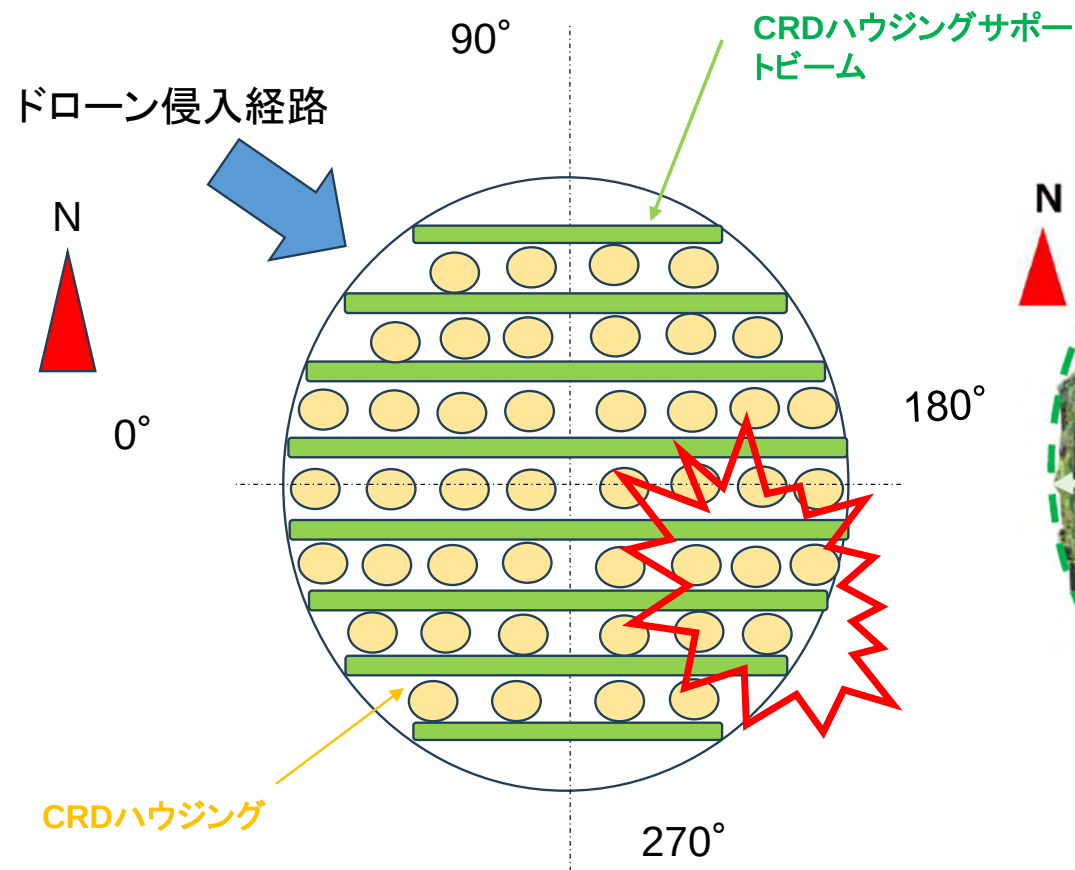
圧力容器の胴内径とペDESTAL 内壁の距離を同等として圧力容器の破損範囲を推定

下鏡セントラルディスクと下鏡ペタルとの境界で、破断してるとして、下鏡セントラルディスクの破断面積の割合を推定(単純面積比例で概算した場合)

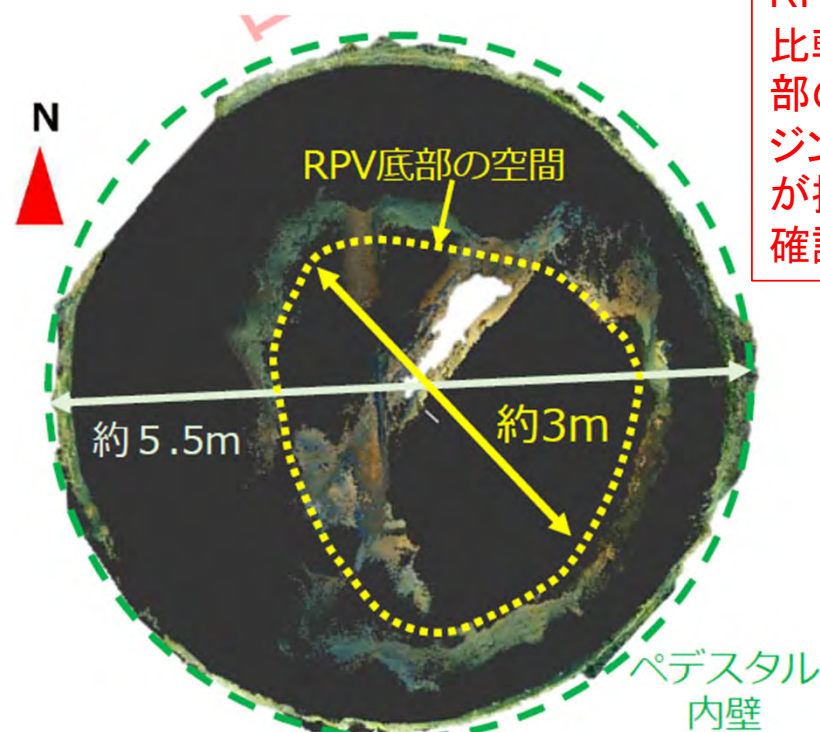
下鏡セントラルディスクの破断面積の割合約50パーセントであるため、単純面積で比較すると約69本以上のCRDハウジングが落下等損傷していると推定

6. ドローン調査結果との推定開口部の比較





CRDハウジングサポートビーム展開図
(29ページ参照)



RPV損傷推定と
比較して、底部の開口
部の下部のCRDハウ
ジングサポートビーム
が損傷していることが
確認された。

RPVの空間形状※

※3号機PCV内部気中部調査(マイクロドローン調査
について(東京電力)2026年8月27日より引用

7. RPV損傷箇所とペDESTAL損傷箇所との位置関係

(参考) ペDESTAL壁の一部欠けについて

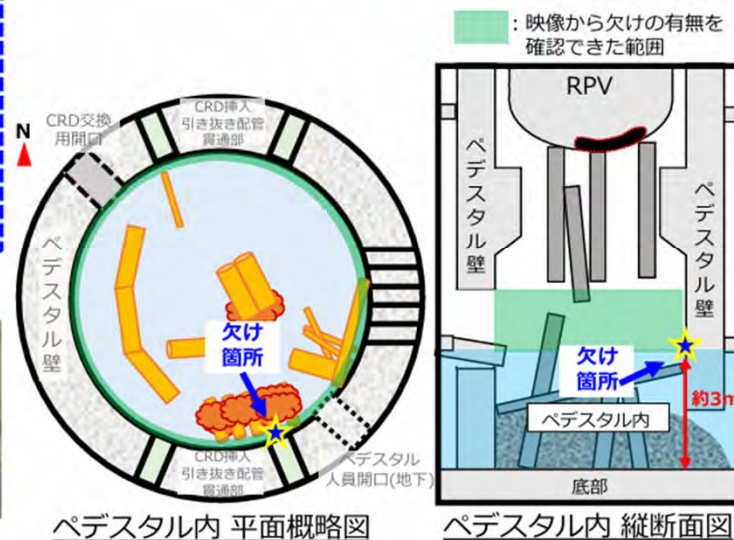
TEPCO

- 点群データの検証作業の中で、ペDESTAL壁が一部欠けている事を確認
- 欠けの大きさは約10×5cm程度であり、位置はペDESTAL内壁の南南東側の床面から約3mの高さと推定
- なお、他に欠けている箇所は無いが、改めて映像を確認した結果、撮影できている範囲においては、当該箇所以外に確認されなかった
- 今後計画している調査の中で改めて確認し、知見を拡充していく

3号機 PCV内部気
中部調査(マイクロド
ローン調査)の追加
結果として、ペDESTAL
側壁の一部欠けが
報告されたことから、
これまで、調査してき
た内容と比較検討を
行った。

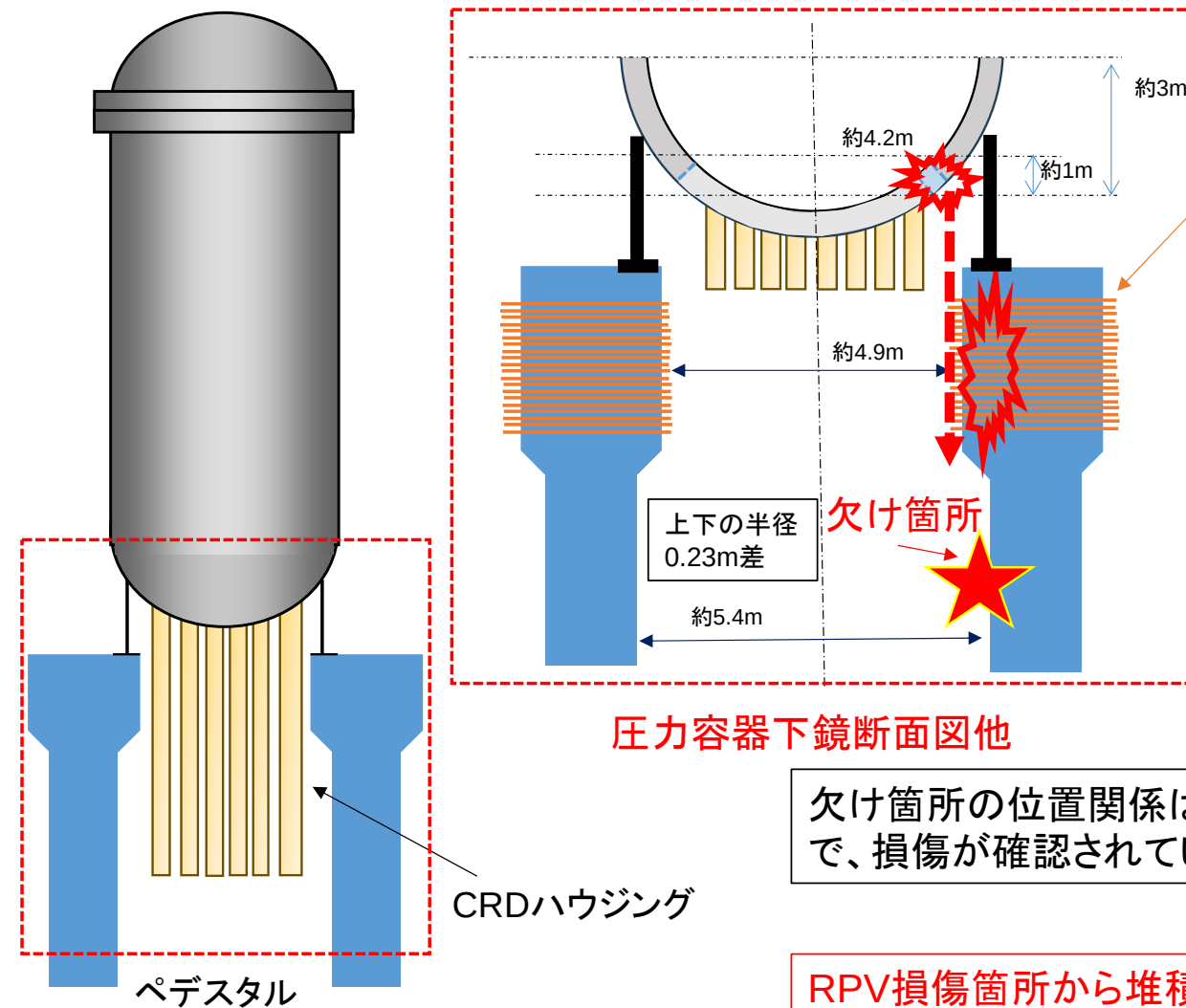


ペDESTAL壁の欠け箇所

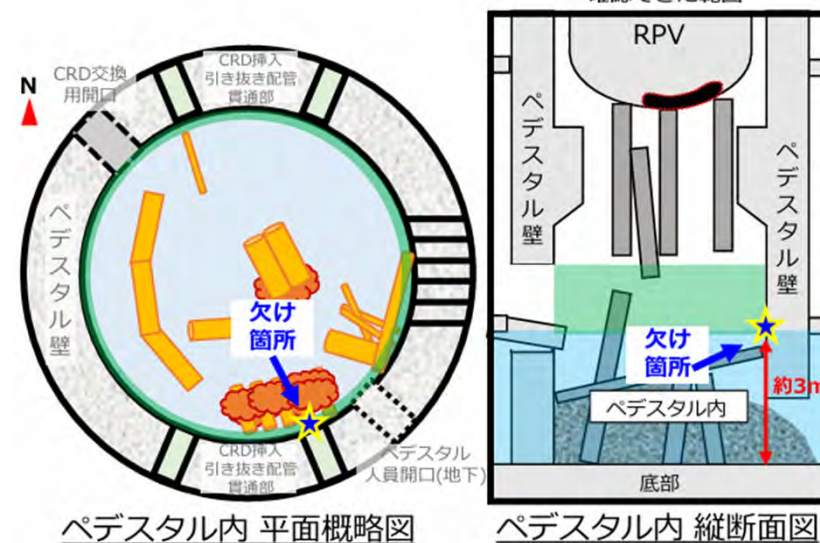


6

※特定原子力施設監視・評価検討会(第123回)資料1-1より



CRD(HCU)配管



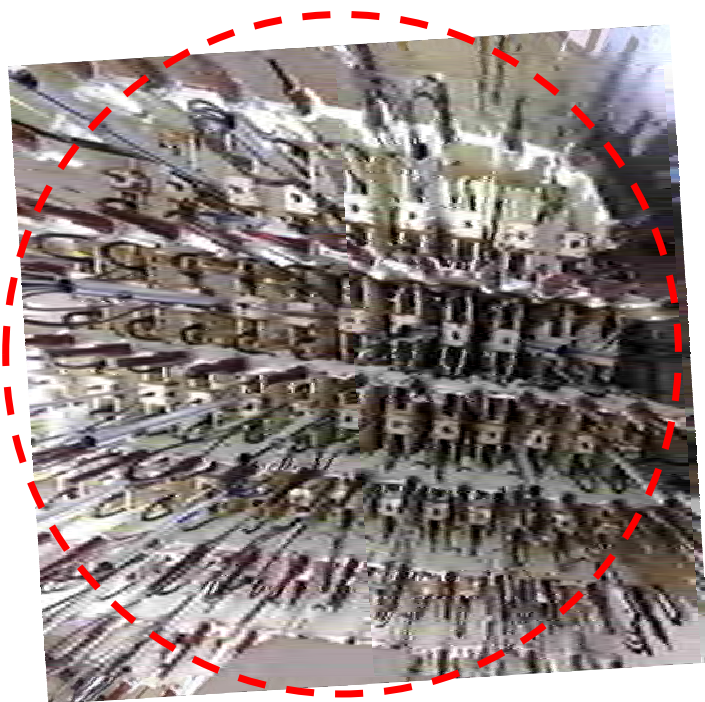
※3号機PCV内部気中部調査(マイクロドローン調査について(東京電力)2026年8月27日より引用

欠け箇所の位置関係は、下鏡セントラルディスクと下鏡ペタルの境界の直下で、損傷が確認されている180° から270° と整合する。

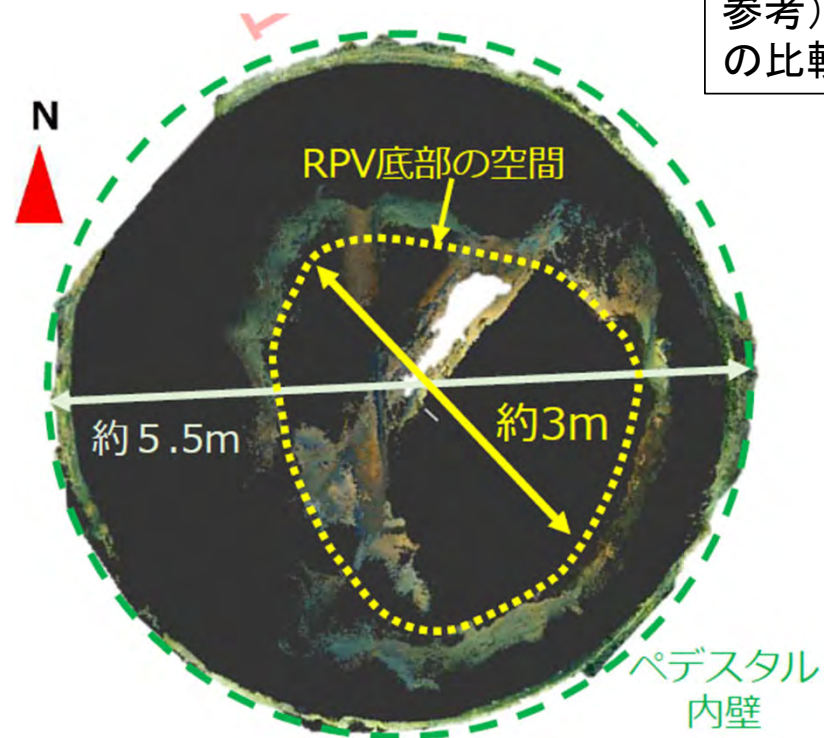


RPV損傷箇所から堆積物の落下経路と欠損箇所の位置関係は整合する

参考)健全なプラントとの比較



健全な状態
(5号機ペデスタル下からの写真)



RPVの空間形状※

※3号機PCV内部気中部調査(マイクロドローン調査
について(東京電力)2026年8月27日より引用

8. まとめ(推定)

本評価は炉内構造物の残存状態及び荷重伝達経路に着目して事故進展を評価したものである

【原子炉圧力容器の破損推移(推定)】

1) プラント操作、パラメータから原子炉圧力容器の破損推移を推定

⇒ 下鏡の損傷は、初期的な損傷の発生後、熔融物の落下・堆積、支持構造の損傷進展及び水素爆発等に伴う振動の影響が重畳することで段階的に拡大し、現在確認されている大規模な損傷形態に至った可能性がある。特に、初期損傷後も残存していた下鏡の一部については、その後の熱的影響や荷重増加等により損傷が進展し、開口部の拡大に至った可能性がある。
⇒ RPV下鏡損傷が段階的に進展した可能性を示唆する。

【炉内構造物の損傷状況の推定】

2) 炉内構造物であるCRガイドチューブ(制御棒案内管)が、多数、原子炉圧力容器下部及びペデスタルに落下していることを確認

⇒

○鉛直方向については、一部の制御棒案内管(CRガイドチューブ)が、ペデスタルへ落下又は、原子炉圧力容器下部に散乱していることから垂直方向については、損傷していると断定

○水平方向については、一部の制御棒案内管(CRガイドチューブ)が、同様に散乱していることから、少なくとも上部格子板の一部及び炉心支持板を含む燃料支持構造物の損傷を推察する。ただし、シュラウドについては、シュラウドサポート等の損傷については、現時点の映像から評価は困難

○圧力容器の開口部の状況から、単純面積比較で、約69本以上のCRDハウジングが落下等損傷していると推定

【原子炉圧力容器の破損状況からの推定】

○ペデスタル壁の欠けの部分については、下鏡板のセントラルディスクとペタルの境界と推定さえる破断箇所から溶融物が落下し、その結果欠けを発生させた可能性が示唆される。(180° から270° の部分)

○ペデスタル壁の欠けの部分にある堆積物については、その部分(180° から270° の部分)にのみ堆積しており、確認した範囲において、壁付近の堆積している箇所は確認出来なかった。

○破損が確認された厚みについては、RPV母材の厚みとほぼ同等であることから熱による変形等は限定的であったと推定。

⇒

○ペデスタル壁の一部欠けについては、欠けが確認された箇所が、RPV下鏡セントラルディスクと下鏡ペタルの境界部において破断厚さ約140 mmが確認された箇所、CRDハウジングサポートの損傷箇所、およびCRD(HCU)配管の大部分が損傷していた箇所のほぼ直下に位置している。

また、確認された範囲において、欠損部近傍には他のペデスタル壁周辺では確認されていない特徴的な堆積物が存在している。このことから、ペデスタル壁の欠けは単独で生じたものではなく、上部構造物の損傷やそれに伴う溶融物・構造物の落下、堆積等の事象と関連して発生した可能性が考えられる。

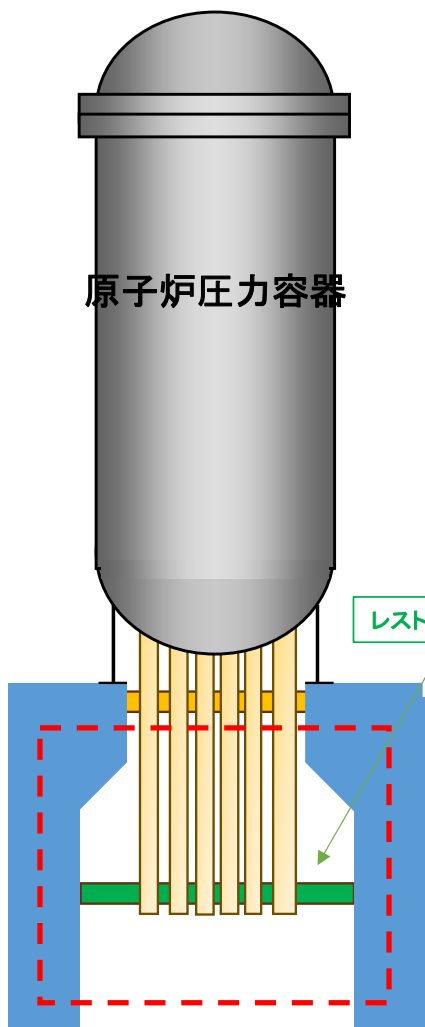
【過去の事故分析検討会の議論との相違点】

○3・4号機SGTS配管の汚染が1・2号機に比べて著しく低い要因を、3号機ベント時(3/13 9時20分頃、12時30分頃)に原子炉容器の破損が生じておらずドライウェル内における放射性物質が低い濃度であったためと評価していることとの整合性を検討する必要がある。

(東京電力福島第一原子力発電所事故の調査・分析に係る中間とりまとめ(2021年3月5日))

9. 【参考】女川1及び3号機現地調査概要（ペDESTAL内調査 CRDハウジングサポート他）

1号機(MarK I)

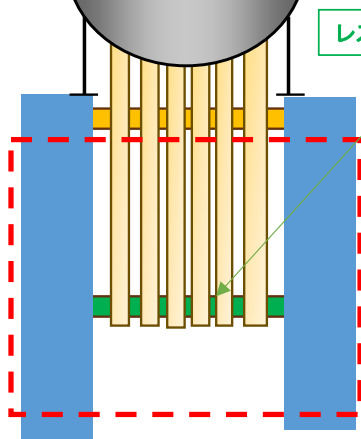


- ① 女川1号機について、CRDハウジングサポートしてレストレイントビーム設置プラント
- ② ペDESTALは RC構造に鋼板で補強
- ③ ペDESTAL下部にドレンピットを設置

3号機(MarK I 改)



原子炉压力容器



レストレイントビーム



3号機ペデスタル内を撮影
(規制庁撮影(2026年7月31日))



CRDハウジングサポートのレストレイントビームを撮影
(規制庁撮影(2026年7月31日))



CRDハウジングサポートのレストレイントビームを撮影
(規制庁撮影(2026年7月31日))



CRDハウジングサポートのレストレイントビームを撮影
(規制庁撮影(2026年7月31日))

- ①女川3号機について、CRDハウジングサポートして**レストレイントビーム**設置プラント
- ②ペデスタルは SC構造(鋼板(Steel Plate)の内側にコンクリートを充填し、鋼材とコンクリートを一体化して強度を高めた構造)

2号機(MarK I 改)



IV 放射性物質を閉じ込める

① 水素再結合装置

触媒により水素と酸素を反応させて水にすることで水素温度を下げて、原子炉建屋内の水素爆発を防止します。



II 地震への備え

② 屋根・壁面への耐震工事

耐震性を強化するため、屋根と壁面に鉄骨(梁)を追加するとともに、壁の下半分にコンクリートの打ち増しを施しています。



IV

③ フィルター付格納容器ベント装置

原子炉格納容器の破損を防ぐため容器内の蒸気などを大気中に放出する際に、放射性物質の量を1,000分の1以下に抑えます。



④ 水圧制御ユニットのサポート強化

緊急時に原子炉を自動停止させる制御棒を一齐に挿入する水圧制御ユニットにも、耐震補強を施しています。



⑤ 主蒸気配管、給水配管のサポート強化

原子炉からの蒸気をタービン建屋に送る主蒸気配管と、タービンを回し終えた蒸気を水に戻し、原子炉に送る給水配管に耐震補強を施しています。



II

⑥ 圧力抑制室の耐震工事

原子炉格納容器内の圧力が蒸気により上昇した場合、蒸気を冷却し圧力を下げる圧力抑制室にも耐震補強を施しています。



II 電気と水の確保

⑦ 高圧代替注水設備

万一、電源を失った場合でも原子炉の蒸気で駆動する注水ポンプを追加配備し、原子炉を“冷やす”ための冷却機能の信頼性をさらに高めています。



①女川2号機について、CRDハウジングサポートして**レストレイントビーム**設置プラント
 ②ペデスタルは SC構造(鋼板(Steel Plate)の内側にコンクリートを充填し、鋼材とコンクリートを一体化して強度を高めた構造)
 ③新規規制基準適合プラントであるため、PAR等の設備を完備している。

※女川原子力発電所見学BOOK(東北電力)より抜粋

【参考】

東京電力福島第一原子力発電所における事故の分析
に係る検討会 第55回会合 資料2

3号機原子炉格納容器内ドローン調査結果を 踏まえた考察等

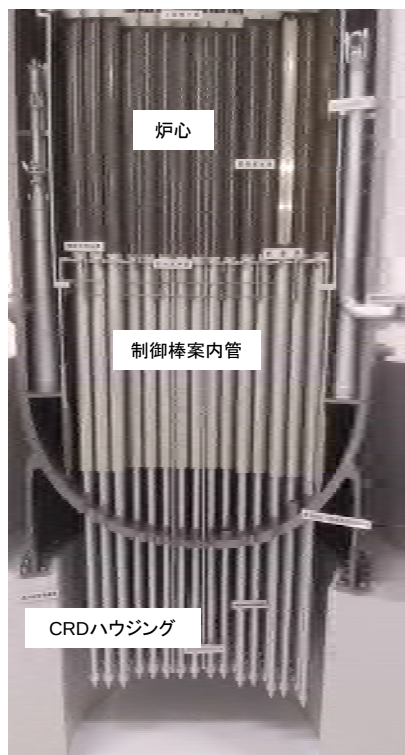
2026年6月5日

原子力規制庁

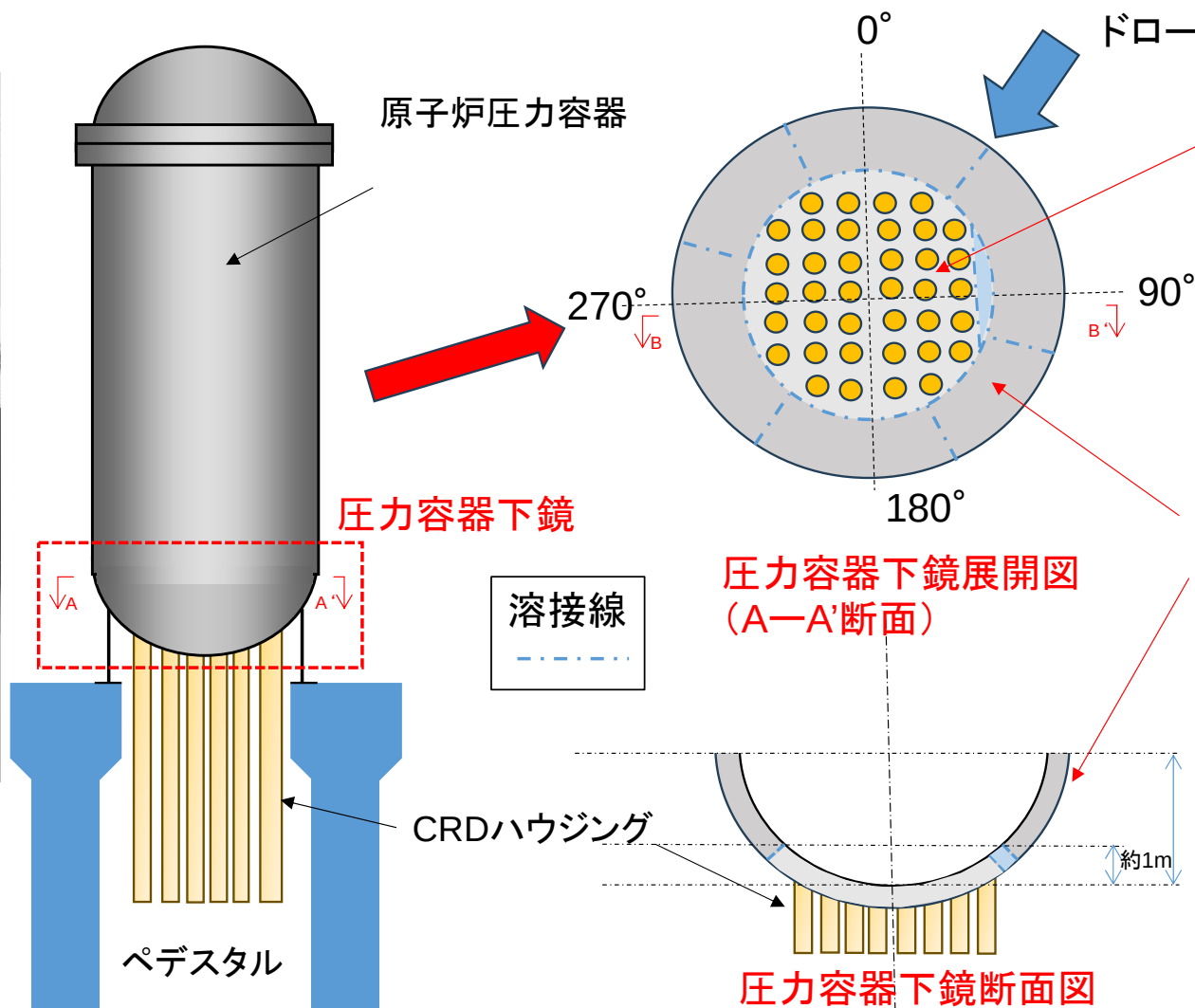
東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

1. 3号機原子炉格納容器ペデスタル概要と原子炉圧力容器下鏡の溶接箇所
2. 3号機原子炉格納容器下部の状況(ドローン調査結果を踏まえた状況把握)
3. 3号機のCRDハウジングサポート概要図
4. 3号機のCRDハウジングサポート損傷箇所
5. CRDハウジング支持金物(サポート)設置例
6. 3号機水素爆発発生箇所(推定)、位置関係及び観測記録等
7. 3号機原子炉圧力容器を損傷した時間の検討
8. 3号機原子炉格納容器内ドローン調査結果を踏まえた考察等
9. 【参考】島根1号機現地調査概要(ペデスタル内調査 CRDハウジングサポート他)
10. 【参考】敦賀1号機現地調査概要(ペデスタル内調査 CRDハウジングサポート他)

1. 3号機原子炉格納容器ペデスタル概要と原子炉圧力容器下鏡の溶接箇所

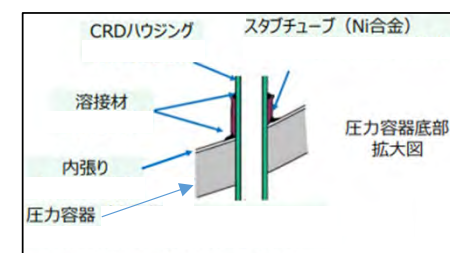


原子炉圧力容器断面モデル
(原子力安全研修所)



ドローン侵入経路

下鏡セントラルディスク
(2分割)
【Mn-Mo-Ni 系低合金鋼】



圧力容器底部拡大図
※燃料デブリサンプル(1回目)の分析結果について
(2025/7/31) (JAEA) 原子力規制庁が一部加工

下鏡ペタル
(6分割)
【Mn-Mo-Ni 系低合金鋼】



原子炉圧力容器断面モデル
(原子力安全研修所)

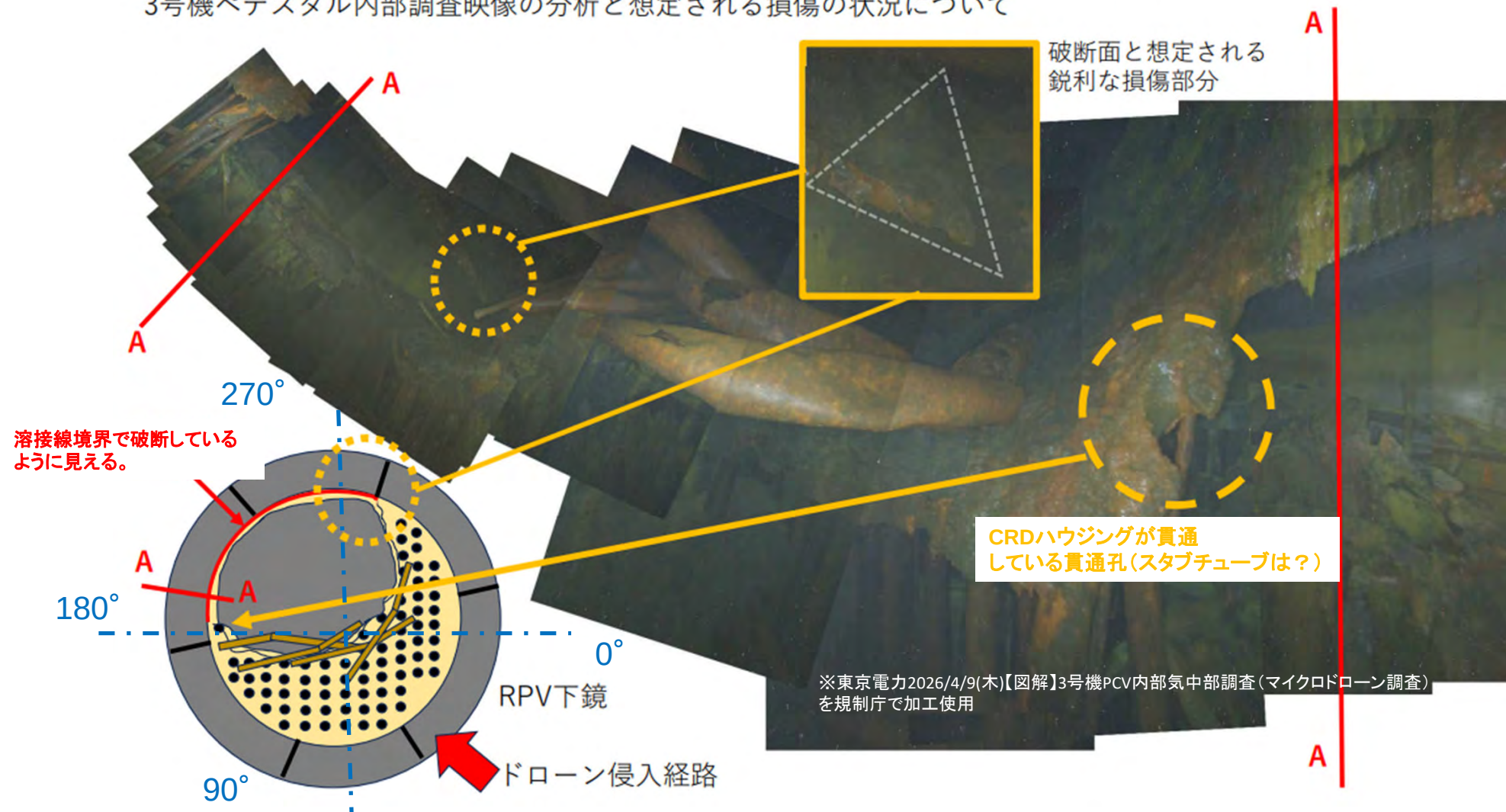
2. 3号機原子炉格納容器下部の状況(ドローン調査結果を踏まえた状況把握①)

3号機ペデスタル内部調査映像の分析と想定される損傷の状況について



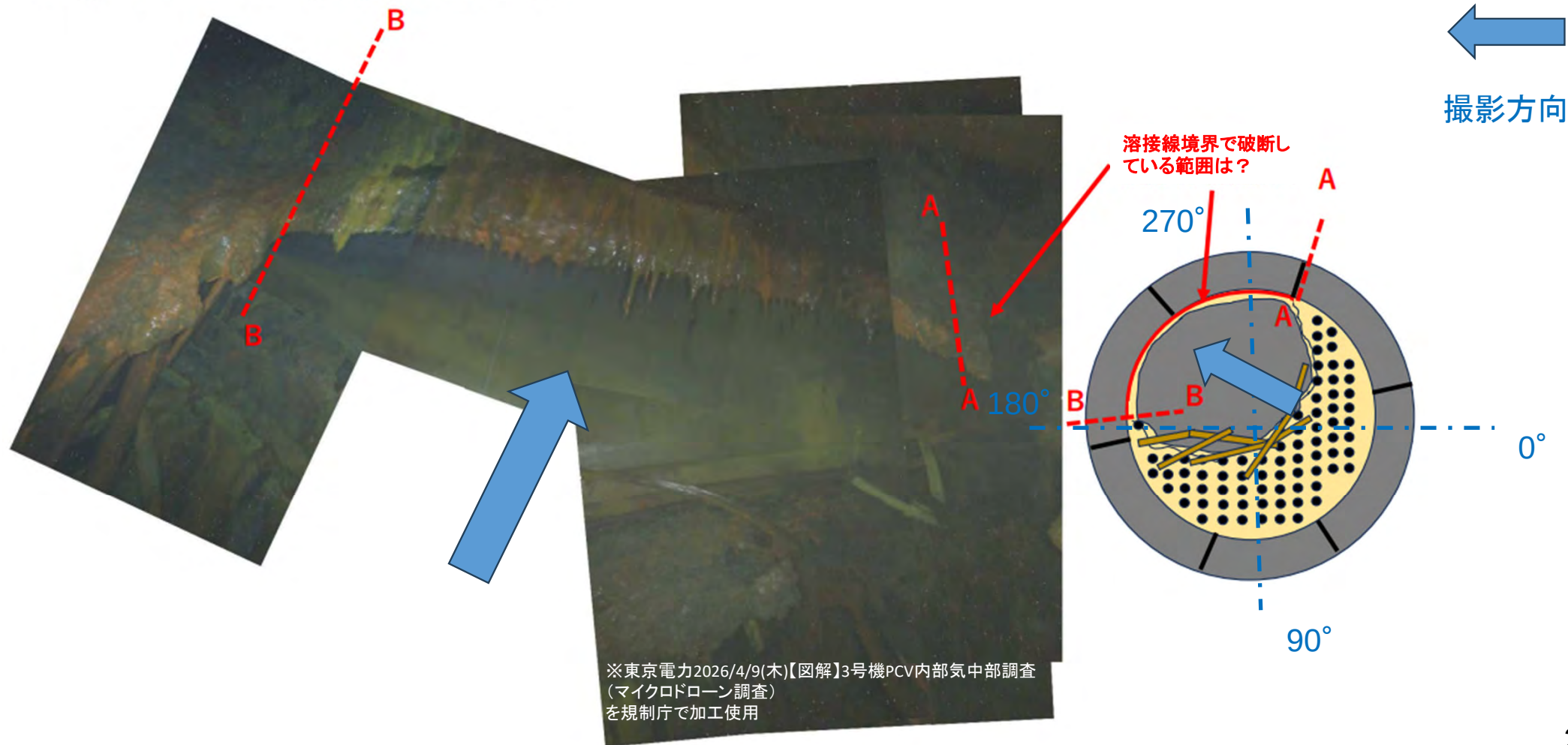
2. 3号機原子炉格納容器下部の状況(ドローン調査結果を踏まえた状況把握②)

3号機ペDESTAL内部調査映像の分析と想定される損傷の状況について



2. 3号機原子炉格納容器下部の状況(ドローン調査結果を踏まえた状況把握③)

3号機ペデスタル内部破損部分A-Bの拡大図



3. 3号機のCRDハウジングサポート概要図

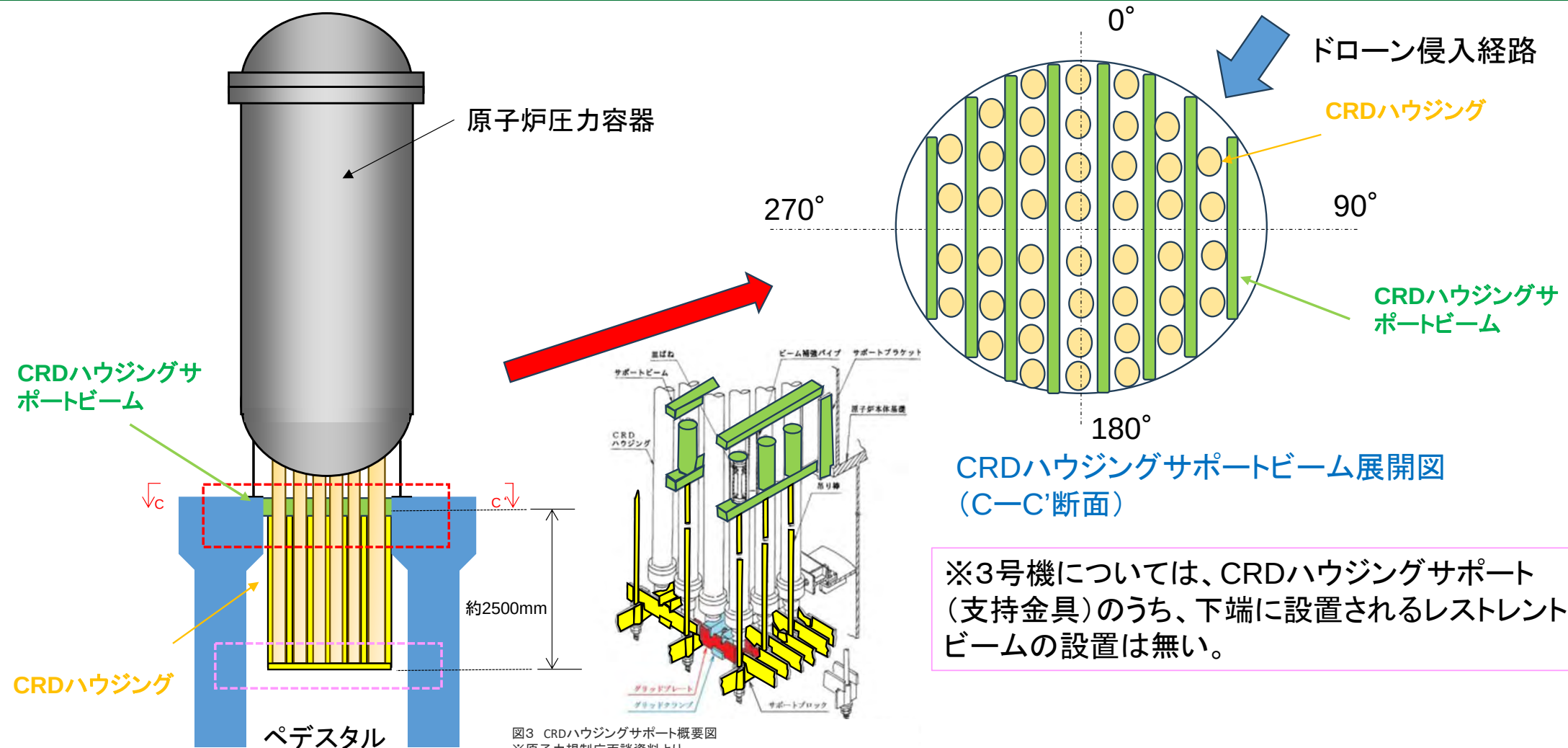
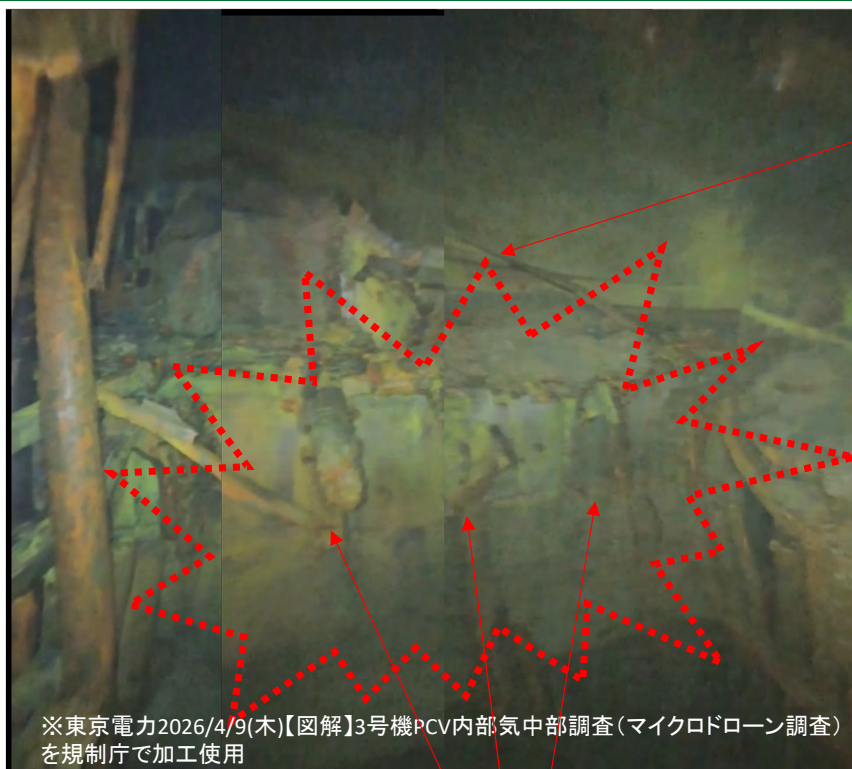
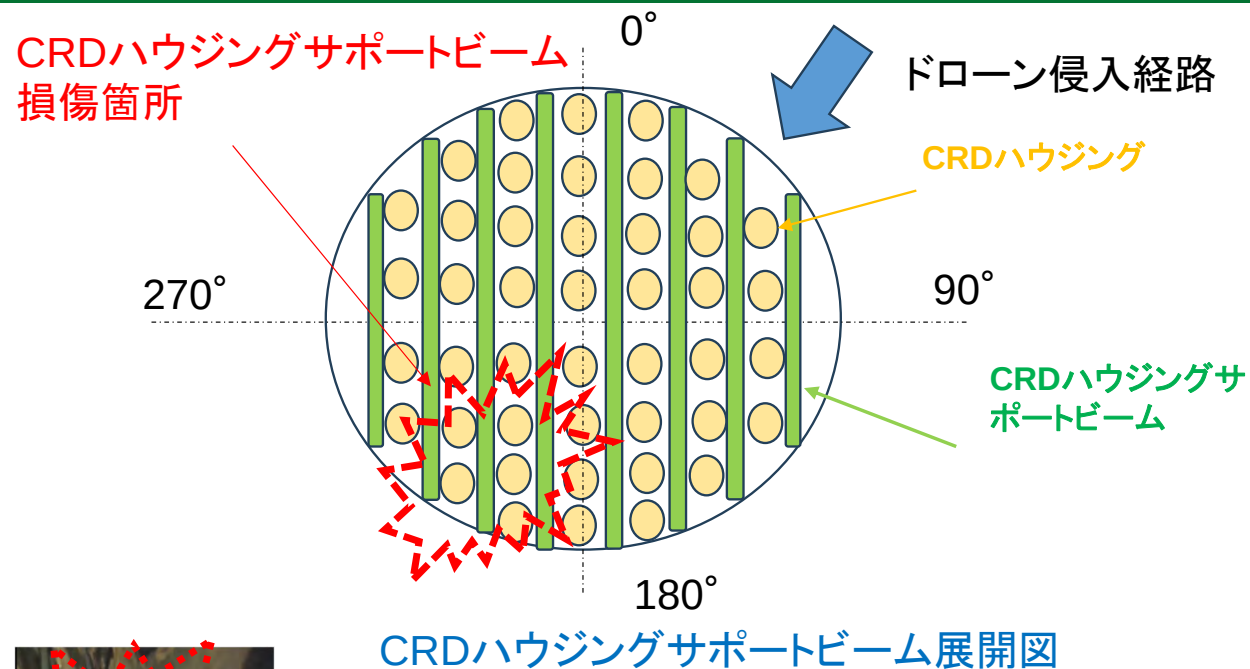


図3 CRDハウジングサポート概要図
※原子力規制庁面談資料より
<https://www.da.nra.go.jp/view/NRA100001054?contents=NRA100001054-002-001#pdf=NRA100001054-002-002>

4. 3号機CRDハウジングサポート損傷箇所(①)

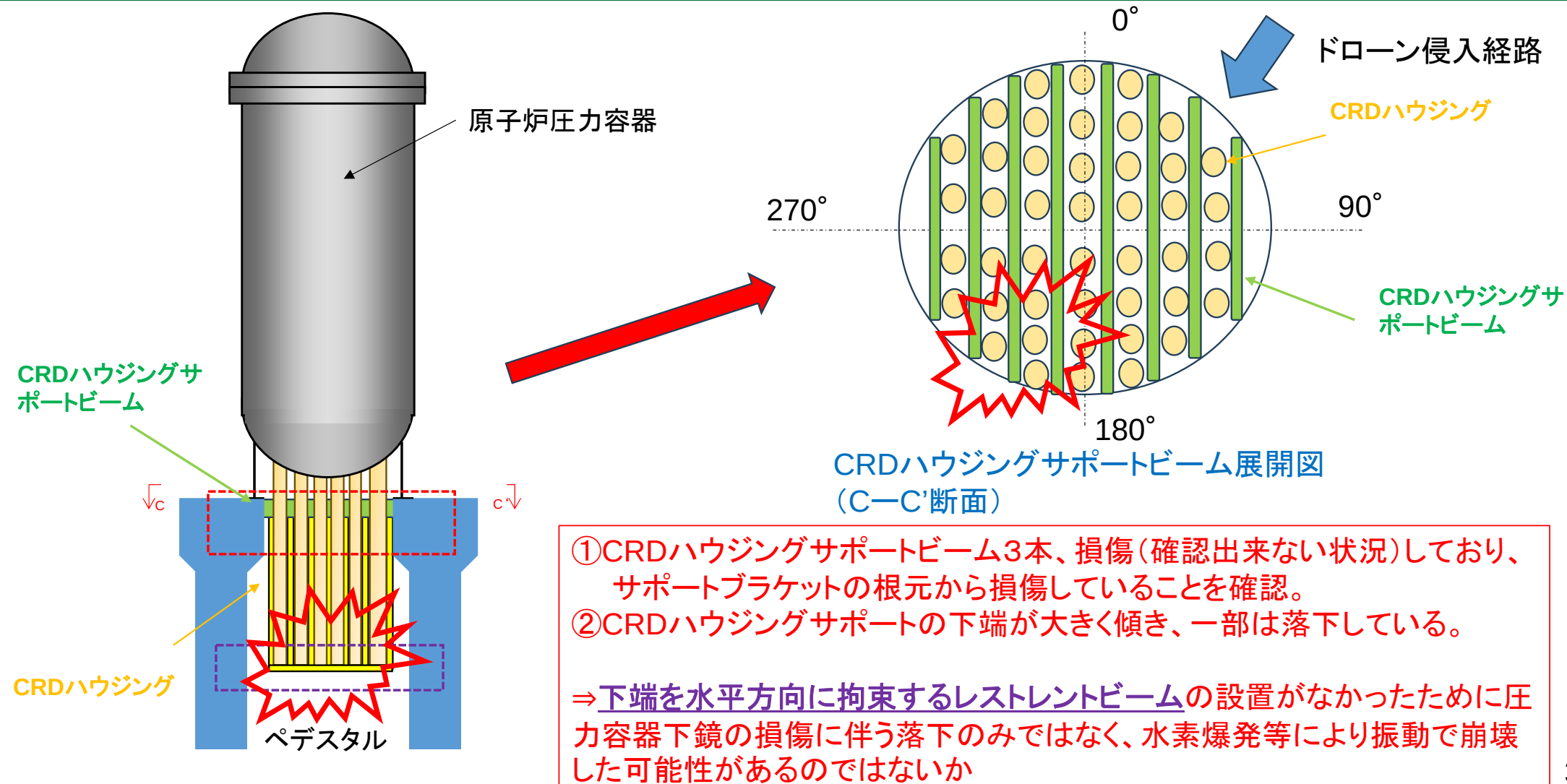


CRDハウジングサポートビーム
支持部(3箇所損傷)



大きく傾いたCRDハウジング下端部
(サポートブロック他)

4. 3号機CRDハウジングサポート損傷箇所(③)



4. 3号機CRDハウジングサポート損傷箇所(④)

ペDESTル内入口からの映像を3号機(上)と5号機(下)で比較

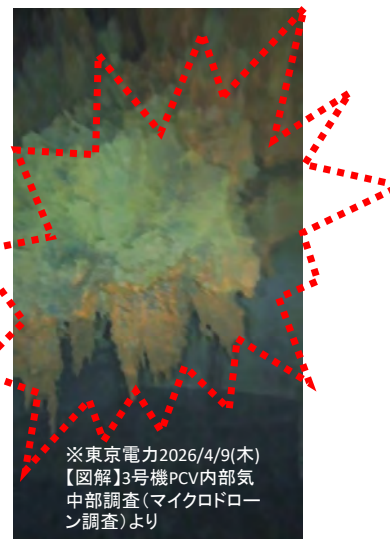
- CRDハウジングの下端部が大きく傾いていることを確認
- CRDハウジングに付着物を確認



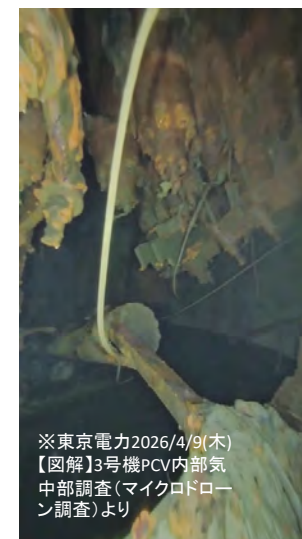
3号機ペDESTル内入口

※東京電力2026/4/9(木)【図解】3号機PCV内部気中部調査(マイクロドローン調査)より

CRDハウジングサポート下端
に付着した付着物



※東京電力2026/4/9(木)
【図解】3号機PCV内部気
中部調査(マイクロドロー
ン調査)より

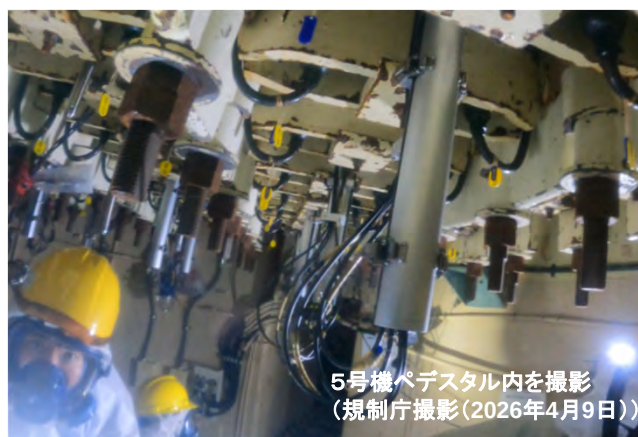


※東京電力2026/4/9(木)
【図解】3号機PCV内部気
中部調査(マイクロドロー
ン調査)より



5号機ペDESTル内入口を撮影
(規制庁撮影(2026年4月9日))

5号機ペDESTル内入口



5号機ペDESTル内を撮影
(規制庁撮影(2026年4月9日))

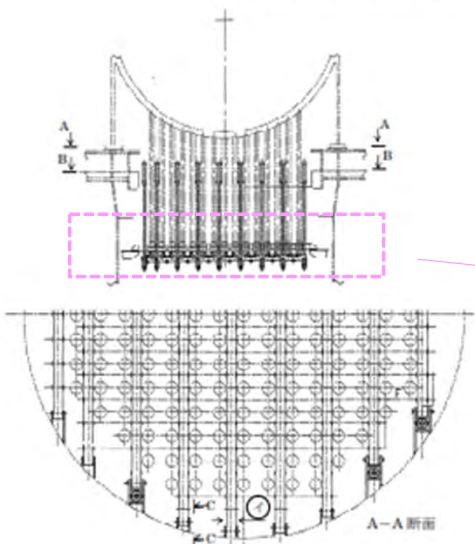


5号機ペDESTル内を撮影
(規制庁撮影(2026年4月9日))

5. CRDハウジング支持金物(サポート)設置例

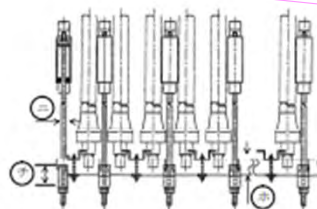
※発電用原子炉施設の設計及び工事の計画に係る手続ガイドより

原子炉圧力容器付属構造物－制御棒駆動機構ハウジング支持金具 (1/2)



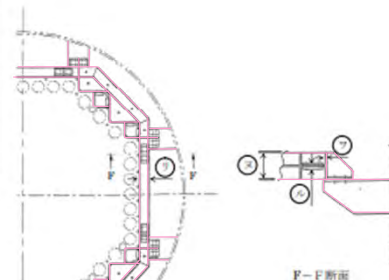
制御棒駆動機構ハウジング支持金具 (1/2)

番号	主要寸法	備考
イ	サポートビーム幅	
ロ、ハ	サポートビーム厚さ	
ニ	吊り棒外径	
ホ	グリッドプレート幅	
ヘ	グリッドプレート厚さ	
ト	サポートバー1幅	
チ	サポートバー2幅	



D-D断面

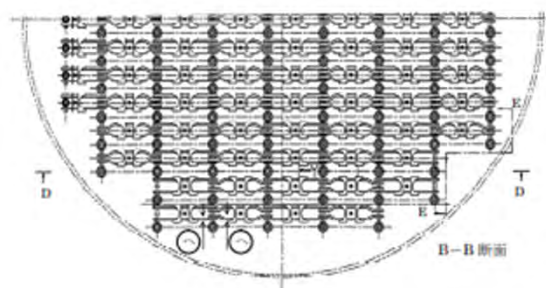
原子炉圧力容器付属構造物－制御棒駆動機構ハウジング支持金具 (2/2)



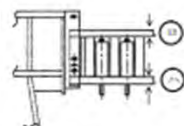
F-F断面

制御棒駆動機構ハウジング支持金具 (2/2)

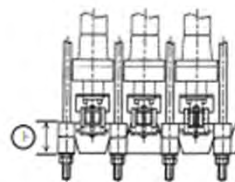
番号	主要寸法	備考
リ	レストレイントビーム幅	
ヌ	レストレイントビーム高さ	
ル、ヲ	レストレイントビーム厚さ	



B-B断面



C-C断面

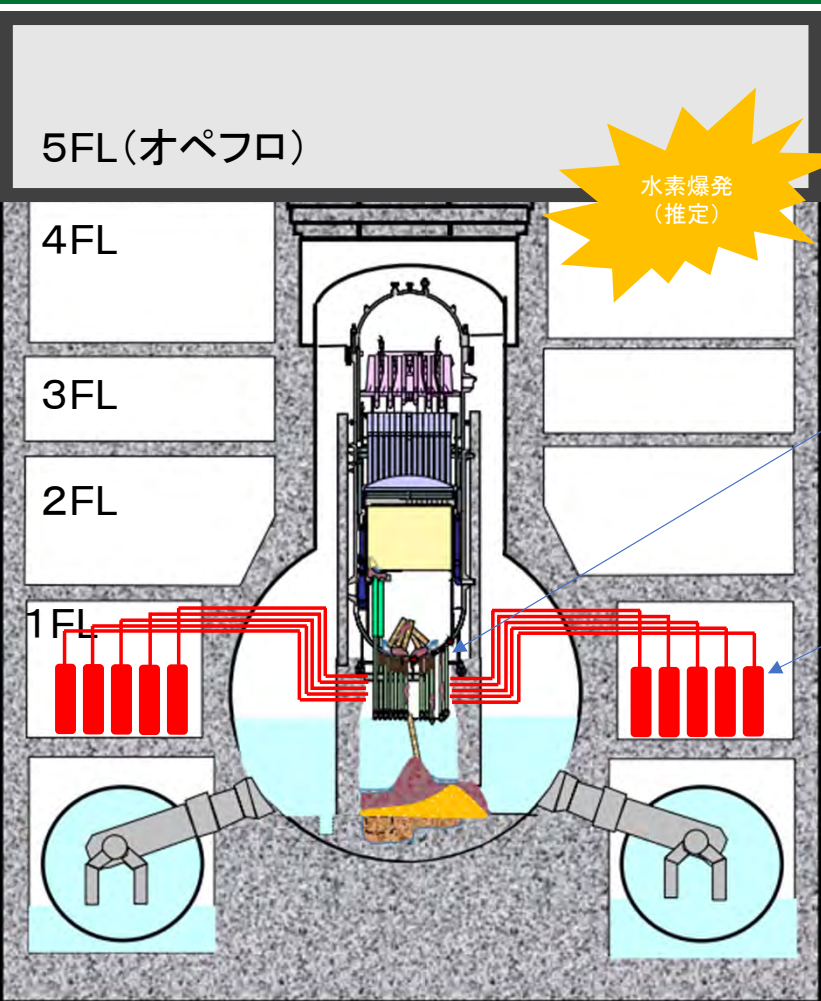


E-E断面



5号機CRDハウジング下部を撮影
(規制庁撮影(2026年4月9日))

6. 3号機水素爆発発生箇所(推定)、HCU、位置関係及び観測記録等



水素爆発
(推定)



福島第一原子力発電所構内における地震観測記録計設置箇所

1号機、3号機及び4号機R/B爆発時に地震観測記録計が観測した最大加速度値(Gal)

	1号機爆発 (3月12日15時36分頃)			3号機爆発 (3月14日11時1分頃)			4号機爆発 (3月15日6時12分頃)		
	南北方向	東西方向	上下方向	南北方向	東西方向	上下方向	南北方向	東西方向	上下方向
観測点A	81	52	120	14	15	21	2	2	2
観測点B	284	129	138	45	18	28	4	3	3
観測点C	2,320 [※]	2,392 [※]	1,956	115	158	490	11	9	6
観測点D	102	91	231	36	51	173	6	7	11
観測点E	39	22	26	26	24	30	5	5	11

[※]センサーの規格値(2,000Gal)を上回っているため、参考値。



東京電力「福島原子力事故調査報告書(中間報告書)」(平成23年12月)を基に作成

東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会(政府事故調)最終報告書(2012.07.23)より抜粋

3号機の炉心・格納容器の状況推定図

※未確認・未解明事項の調査・検討結果報告(第6回)(東京電力)より
原子力規制庁が、HCU等追記

水素爆発時の観測記録等

※福島第1原子力発電所事故の調査・分析に係る中間とりまとめ
(2019年9月から2021年3月までの検討)

7. 3号機原子炉圧力容器が損傷した時間の検討(①)

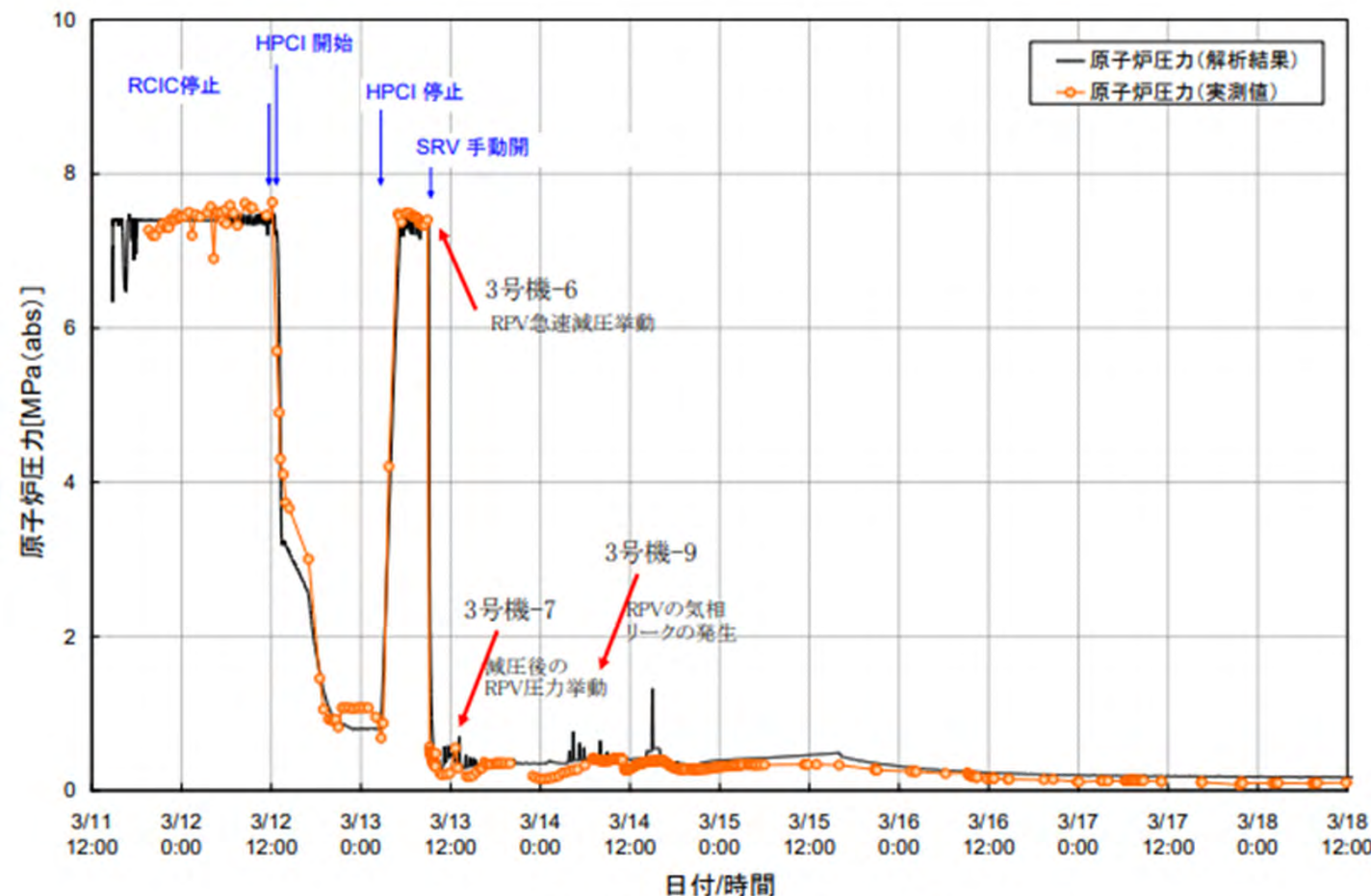


図5.2.2 3号機の原子炉圧力挙動から抽出された課題

※福島第一原子力発電所 1～3 号機の炉心・格納容器の状態の推定と未解明問題に関する検討第6回進捗報告
 2022 年 11 月 10 日 東京電力ホールディングス株式会社から引用

●3号機においては、2011 年 3 月 13 日 2 時 42 分に高圧注水系(HPCI)を手動停止して以降、原子炉圧力が上昇に転じ、5 時間ほど約 7MPa をキープしていたが、13 日 9 時頃、急速に低下し 1MPa を下回ったことが確認されている。

⇒東京電力の報告書※においては、格納容器圧力の挙動や自動減圧系(ADS)の自動起動ロジックの調査の結果として、この減圧は、原子炉圧力容器の破損によるものではなく、ADS の作動による減圧であった可能性が高いことが示された。

⇒過去の事故分析報告書においては、SRVの安全弁機能による減圧の可能性が高いとしている。

(東京電力福島第一原子力発電所 事故の調査・分析に係る中間取りまとめ (2019 年9月から2021年3月までの検討))

◎ドローン調査で確認された圧力容器の損傷状態を踏まえると、当該時間に圧力容器の損傷が発生した可能性はあるのではないか。
 (圧力のトレンドが、1MPa付近を推移)

7. 3号機原子炉圧力容器が損傷した時間の検討(②)

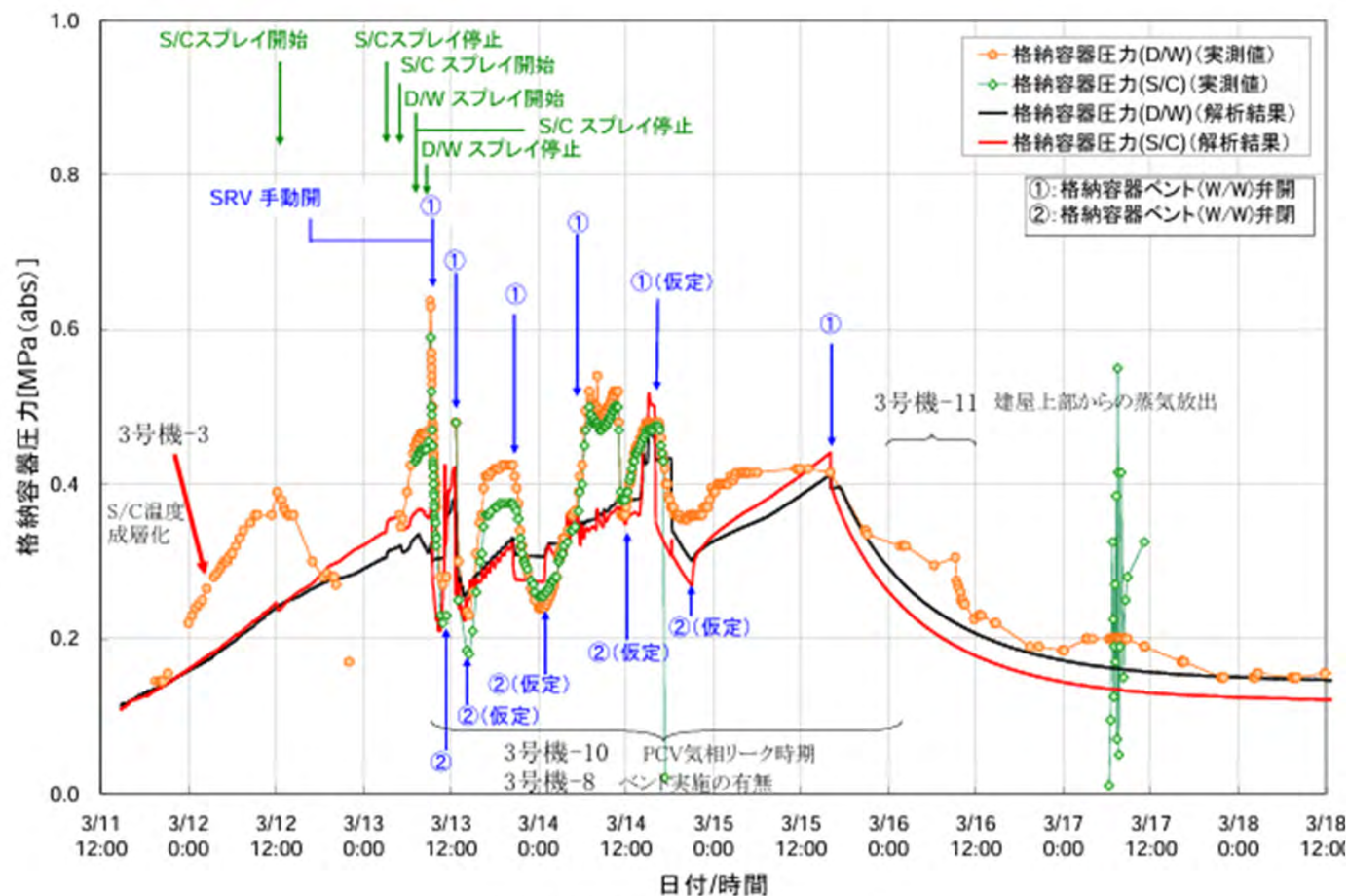


図 5.2.3 3号機の格納容器圧力挙動から抽出された課題

●3号機においては、2011年3月13日9時頃に原子炉格納容器圧力が上昇、下降が確認されている。

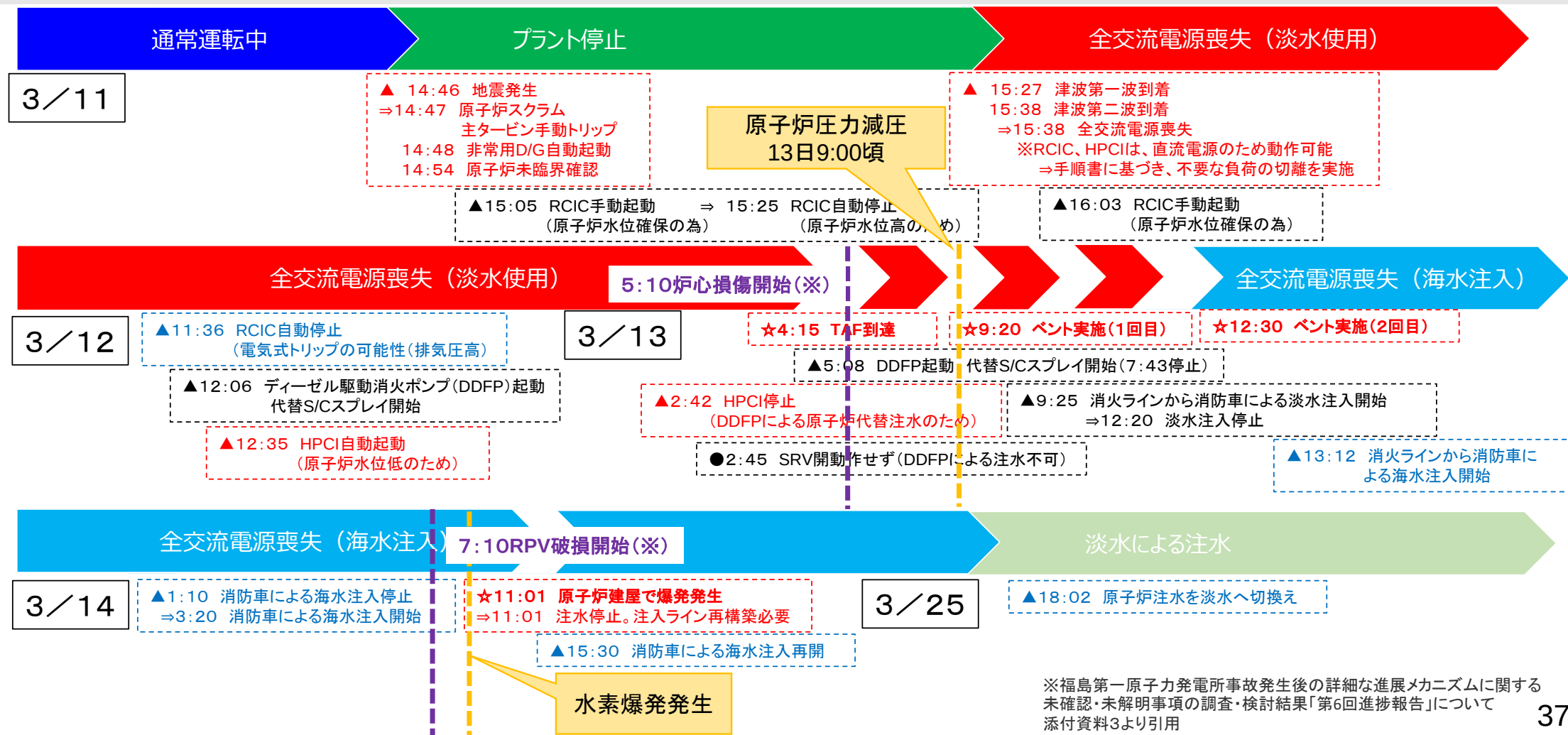
⇒東京電力の報告書※においては、原子炉の急速減圧に伴う格納容器圧力の上昇によって、S/C圧力がラプチャディスク設定圧以上の値に到達し、3月13日9時24分にD/W圧力の低下が確認され、格納容器ベントが実施されたと判断された。

◎ドローン調査で確認された圧力容器の損傷状態を踏まえると、当該時間に圧力容器の損傷が発生し、原子炉圧力容器圧力の上昇が発生した可能性はあるのではないか

※福島第一原子力発電所 1～3号機の炉心・格納容器の状態の推定と未解明問題に関する検討第6回進捗報告
2022年11月10日 東京電力ホールディングス株式会社から引用

7. 3号機原子炉圧力容器が損傷した時間の検討(③)

○3号機のプラント挙動(通常運転中～地震～津波到達～)【時系列】



8. 3号機原子炉格納容器内ドローン調査結果を踏まえた考察等(推定)

【原子炉圧力容器下鏡の損傷状況】

- 1) 下鏡セントラルディスクと下鏡ペタルの溶接部分に沿って、損傷している可能性
- 2) 下鏡セントラルディスクについても、大きな損傷を確認
- 3) 損傷破断面については、鋭利な損傷のような箇所を確認

⇒溶接線からの損傷だけでなく、急速な延性不安定破壊、脆性破壊等の可能性があるのではないか

【CRDハウジングサポートの損傷状況】

- 4) CRDハウジングサポートビームが大きく損傷していることを確認
- 5) CRDハウジングサポート下端が大きく傾斜していることを確認
- 6) CRDハウジングに堆積物の付着を確認

⇒原子炉圧力容器下鏡の破損に伴う落下または、水素爆発等による振動により、サポートビームの損傷及びサポート下端の傾斜が発生し、最終的に原子炉圧力容器の下鏡の大きな損傷が発生した可能性があるのではないか。(初期に発生した開口部が、その後、拡大した可能性)

また、落下したデブリを含む堆積物が、ペデスタル内のCRDサポートハウジング等に付着したことによる重量の増加し、初期に発生した圧力容器の開口部が、徐々に拡大していった可能性があるのではないか。(デブリ等がペデスタル下部に落下する前にCRDサポートハウジングに付着し、堆積している可能性)

【原子炉圧力容器が損傷した可能性のある時間の推定】

- 7) 2011年3月13日 9時頃、7MPaから急速に低下し1MPaを下回ったことが確認されている。

⇒原子炉圧力容器の下鏡の損傷の程度は、不明なものの最初の損傷が発生した可能性はあるのではないか。

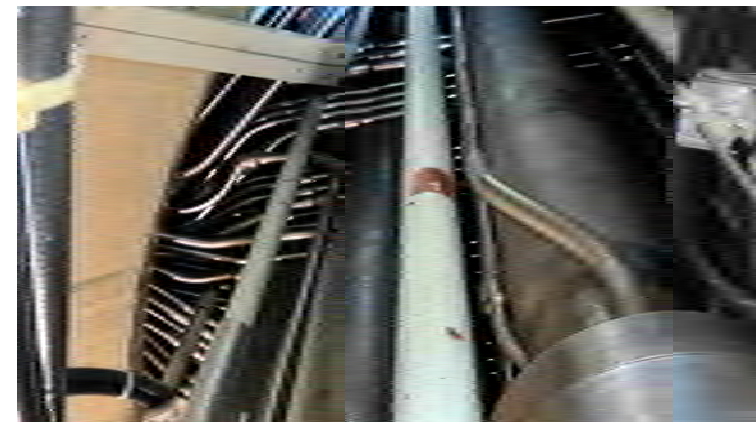
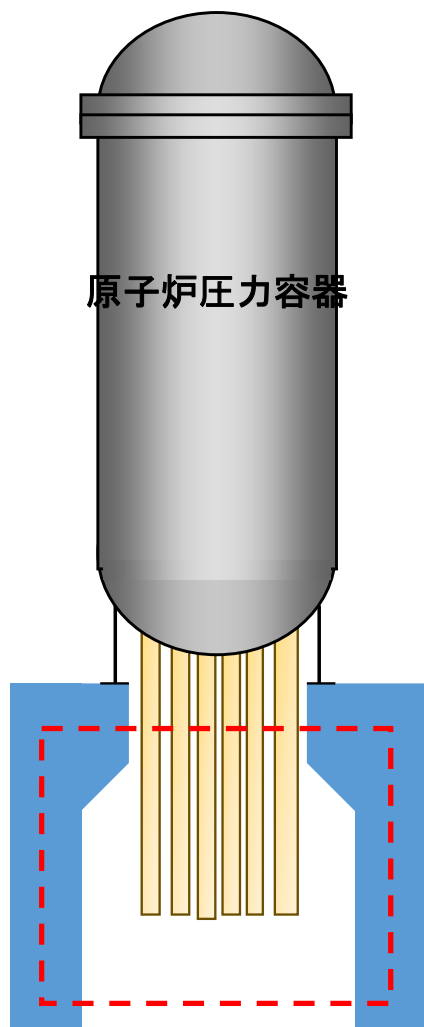
※なお、東京電力の報告書では、ADSの作動による減圧であった可能性が高いことが示されている

また、過去の事故分析においては、SRVの安全弁機能による減圧であった可能性を示している。

【今後の検討課題】

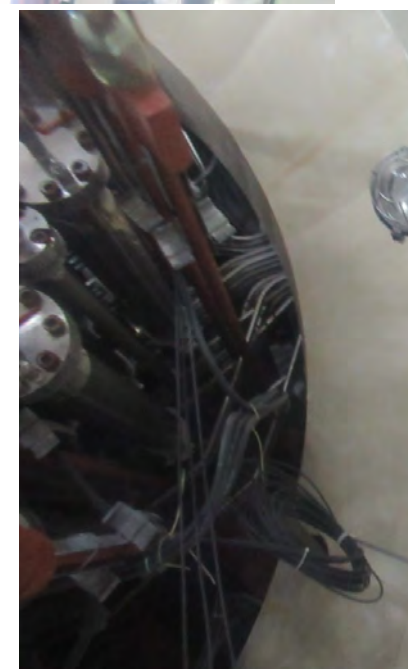
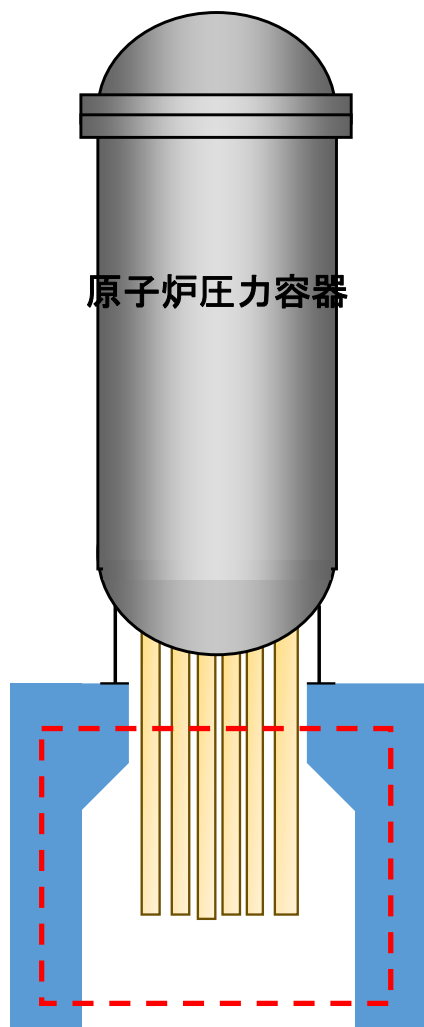
- ①原子炉圧力容器の下鏡が、損傷したタイミングと原子炉圧力容器の減圧したタイミングとの相関関係の検討
- ②原子炉圧力容器の下鏡が損傷する条件の検討(鋭い破断面が発生する可能性のある破損モード等の検討)
- ③溶融物の所在から、落下した溶融物量の概算及び分布状況の検討

9. 島根1号機現地調査概要(ペデスタル内調査 CRDハウジングサポート他)



- ①島根1号機について、3号機と同様にCRDハウジングサポート(支持金具)は、同様の構造。
- ②ペデスタルコンクリートの形状の違いあり(1号機と同じ、3号機との相違)

10. 敦賀1号機現地調査概要(ペデスタル内調査 CRDハウジングサポート他)



- ① 敦賀1号機について、3号機と同様にCRDハウジングサポート(支持金具)は、同様の構造。
- ② ペデスタルコンクリートの形状の違いあり(1号機と島根1と同様、3号機との相違)